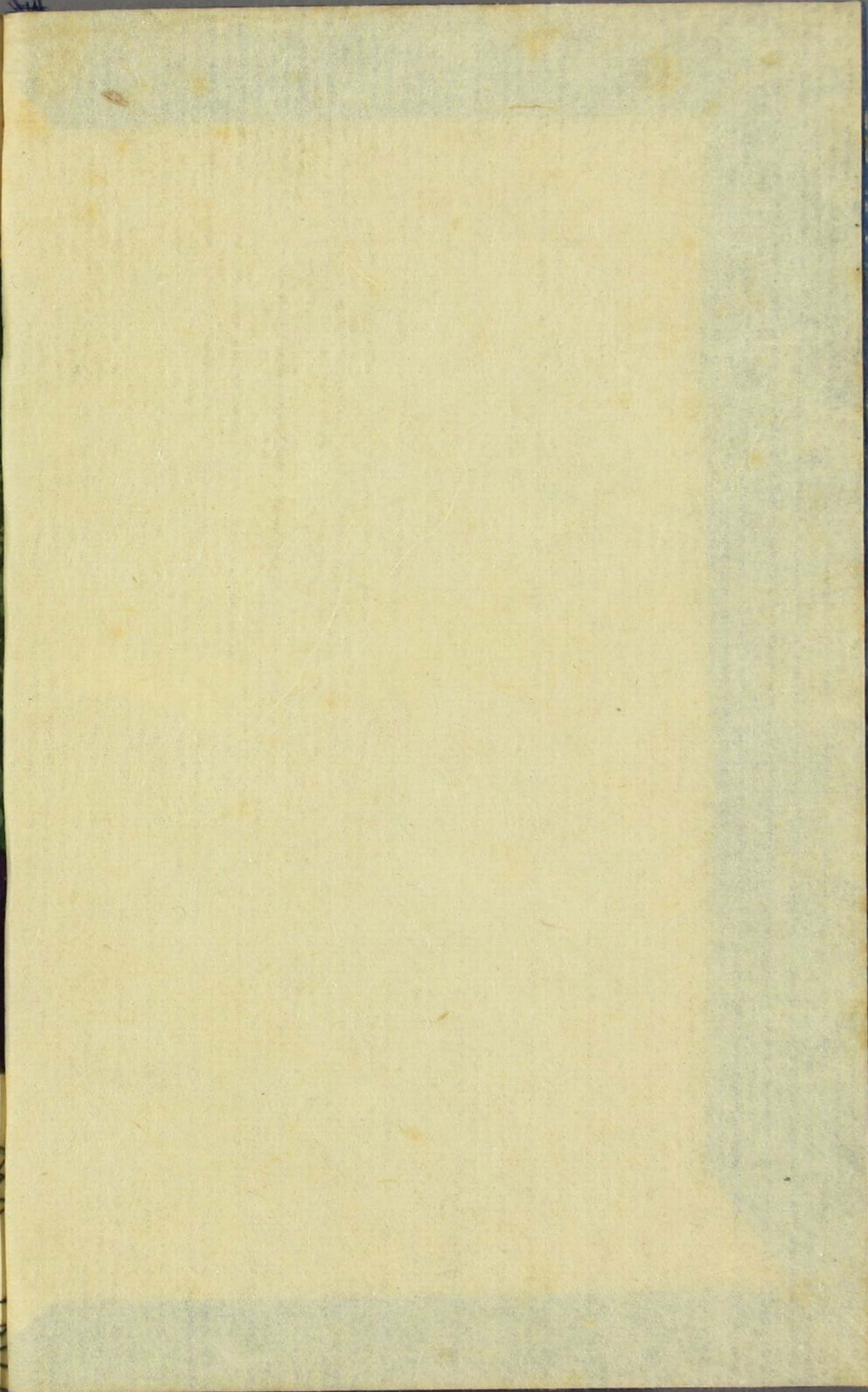




源 河 庄

十三篇上



室町源氏胡蝶
 卷柳 種之次
 他梅 陳夢馬園
 上

室町源氏胡蝶

夜並を休む餘寒の脚炉小茶受の焼餅狐色小焦う一投うそ
 未足らば二ツうそ此飽う傍うある室町の草稿之れ此草紙
 善悪二足の狐より黒龍と呼妖狗あり加之筑前の續風土記の
 載る奇談志平郡芥屋村の久右衛門が養狗の狸と自在扱以し
 事小掬くの支話狗と少女の名とまれど狸ハ猶畜生なれば
 ちと獸が多過ててんまふ人もうらさかてん書改さんくと札を
 願つ離さうの温か布團の下も矢倉の四脚猫え隅ハ
 眠るぬり

慶應四年新刊卯二月上旬脱藁

柳之種考

室町十三

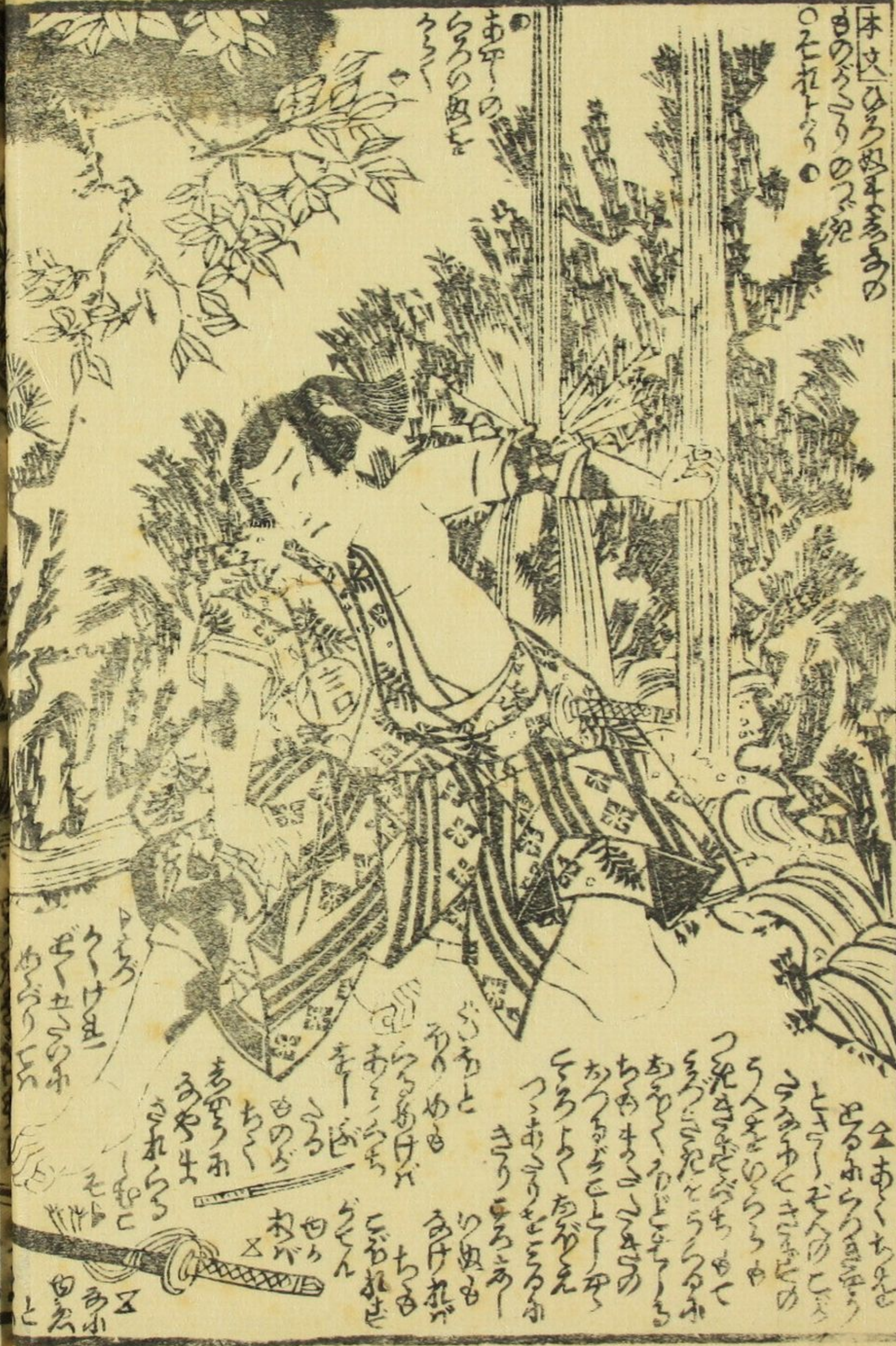


○花園胡蝶
いさごのこころ



○塵塚蜻蛉
ちり塚のせみ

本はひろゆきまきあの
ものろりのつね
のそれりり



あやの
らりのぬき
うら

全あしちを
さるからり
とよらりぞんのこ
らあわてまきま
らんをのららゆ
つたさるさるも
まらりらららら
あやのらららら
あつちらららら
さるららららら
つたさるららら

あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら



あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら

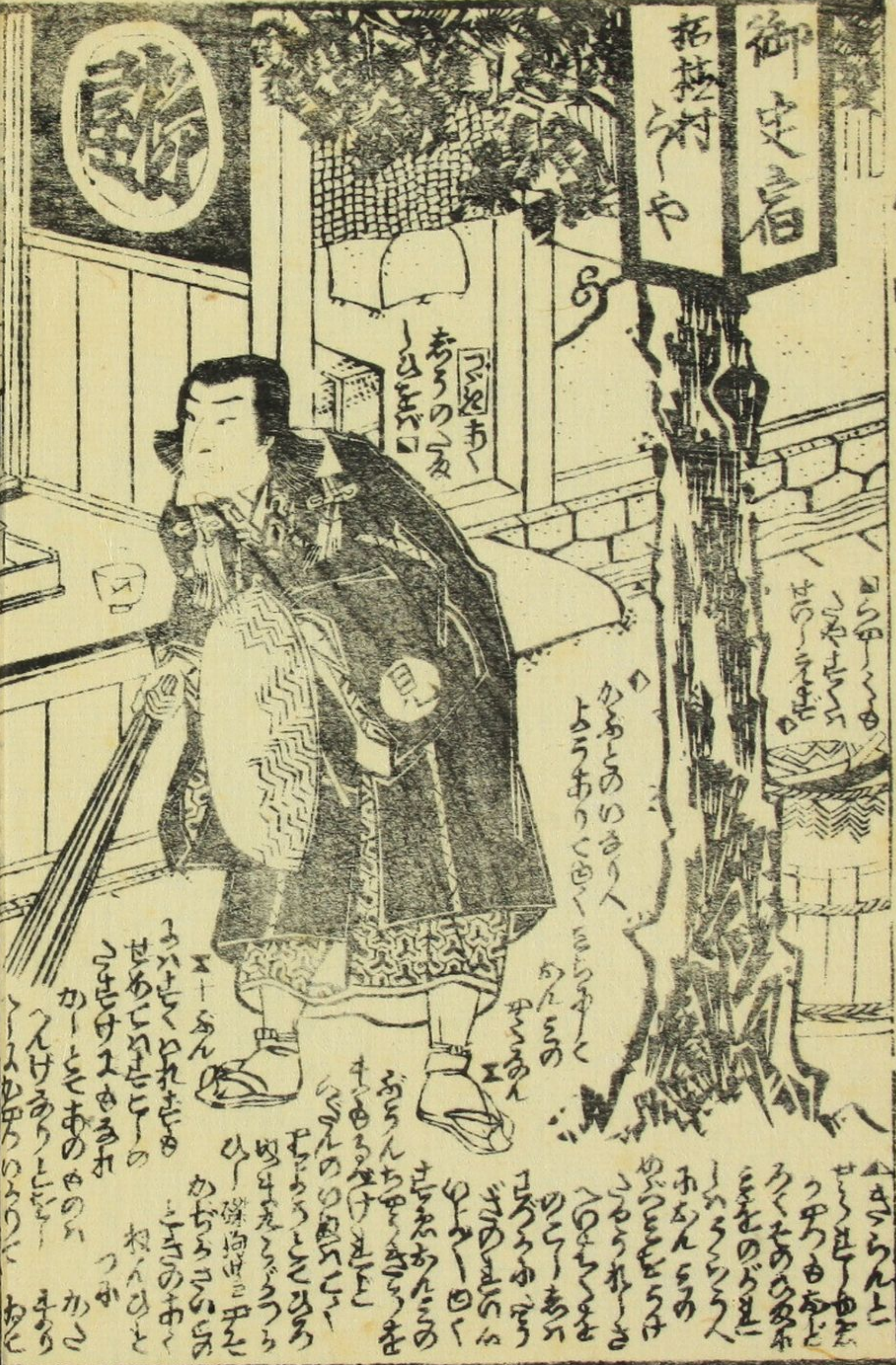
あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら
あやの
らりのぬき
うら





月参講
神樂講

あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ



御定着
招撫
や

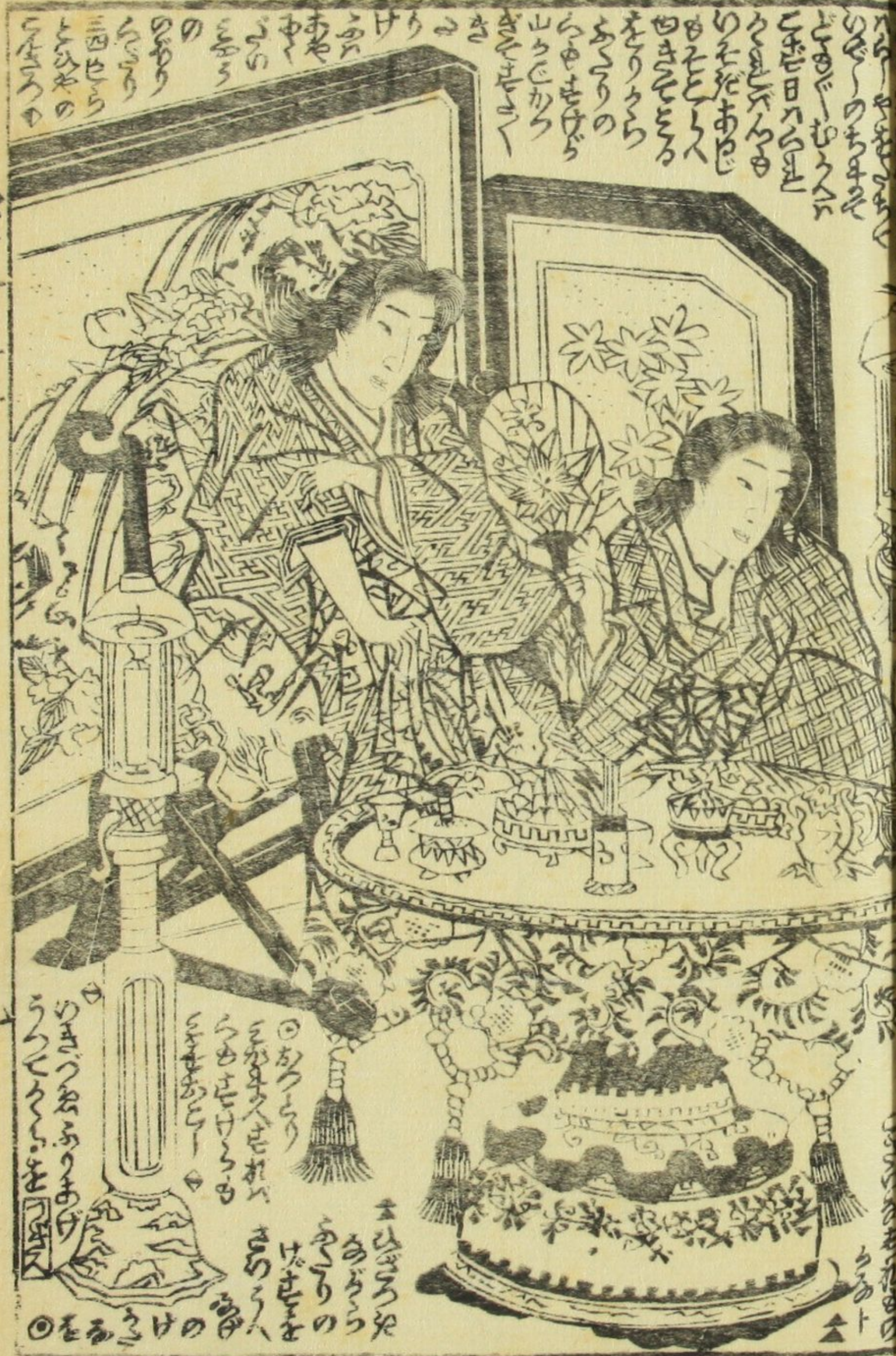
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ
あんなあ



此の木の葉は
 昔の人の
 手紙の
 跡に
 見ゆ
 故に
 昔の
 人の
 手紙
 の跡
 に見
 ゆ

大
 十
 九
 年
 乙
 未
 年
 十
 月
 廿
 九
 日
 室
 田
 十
 三
 郎
 筆

此の
 籠
 の
 中
 に
 昔
 の
 人
 の
 手
 紙
 の
 跡
 が見
 ゆ
 故
 に
 昔
 の
 人
 の
 手
 紙
 の
 跡
 に見
 ゆ



種彦作國貞画

日の上
さゆけ

○物にそのまかせ
あつていふに
すくすくといふ
ひらひらといふ
つれづれといふ
あつていふに
すくすくといふ
ひらひらといふ
つれづれといふ
あつていふに
すくすくといふ
ひらひらといふ
つれづれといふ

山はまの
あつていふに
すくすくといふ
ひらひらといふ
つれづれといふ
あつていふに
すくすくといふ
ひらひらといふ
つれづれといふ
あつていふに
すくすくといふ
ひらひらといふ
つれづれといふ



實母散

さんぜんさんご
とんちのあ
四のあ糸

中輪南傳馬町東側
千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻

六編近
出板

山々亭有人作
権朝樓國貞画

藝黃鵬八幡不知

五編近
出板

山々亭有人作
錦朝樓芳希画

阿玉ヶ池櫛月形

初編ヨリ
追々出板

山々亭有人作
陽齋豊國画

地本綿繪團扇問屋

紅英堂 葛吉

八
下
卷

扇

十三卷下



種
芳
代
國
貞
画

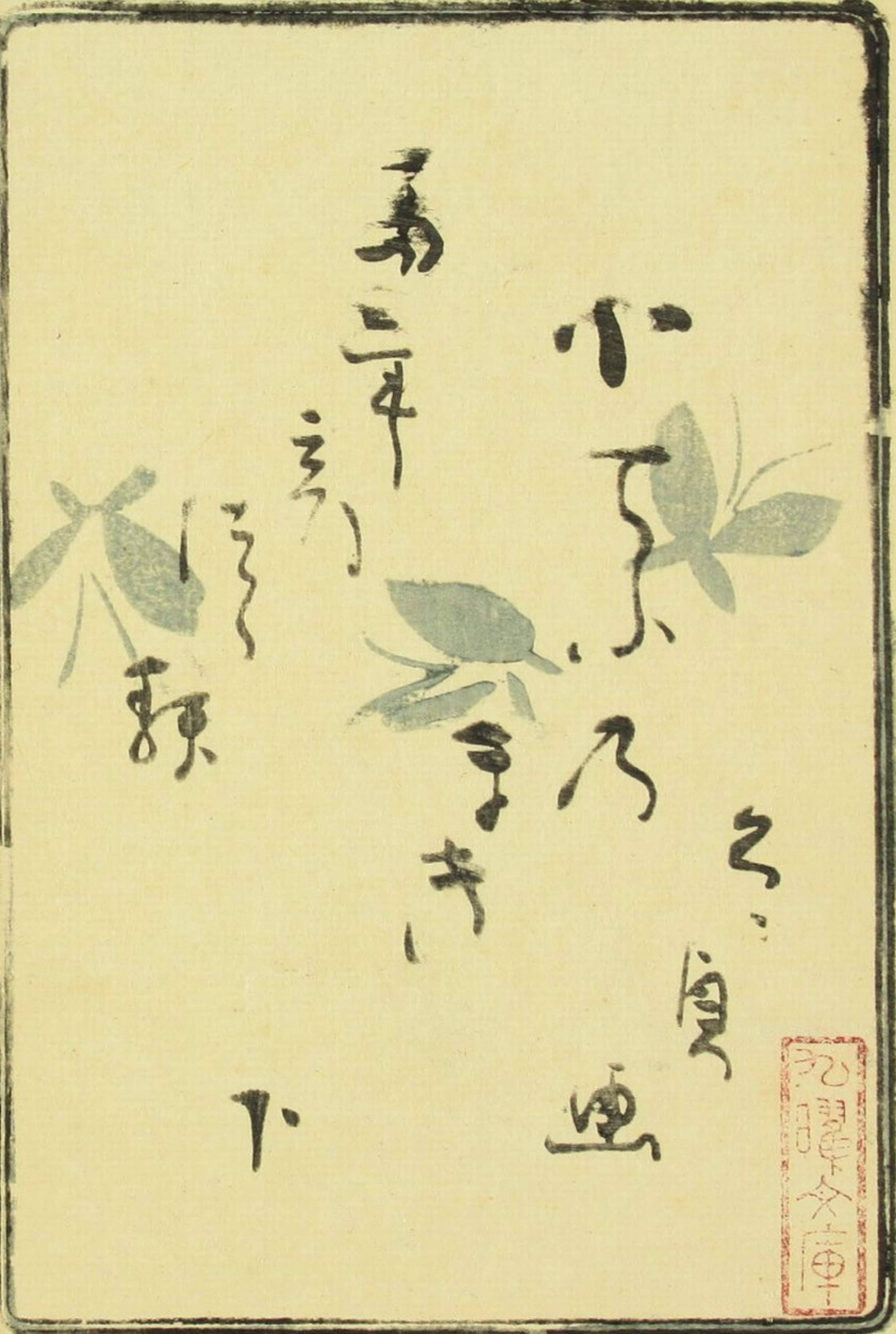




五十三

十一

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a poem or a commentary, surrounding the illustration. The text is arranged in vertical columns, following the contours of the scene.



Red square seal impression with Japanese characters, likely a collector's or publisher's mark.



全お入りのみり
あつちをわらふも
あつちをわらふも

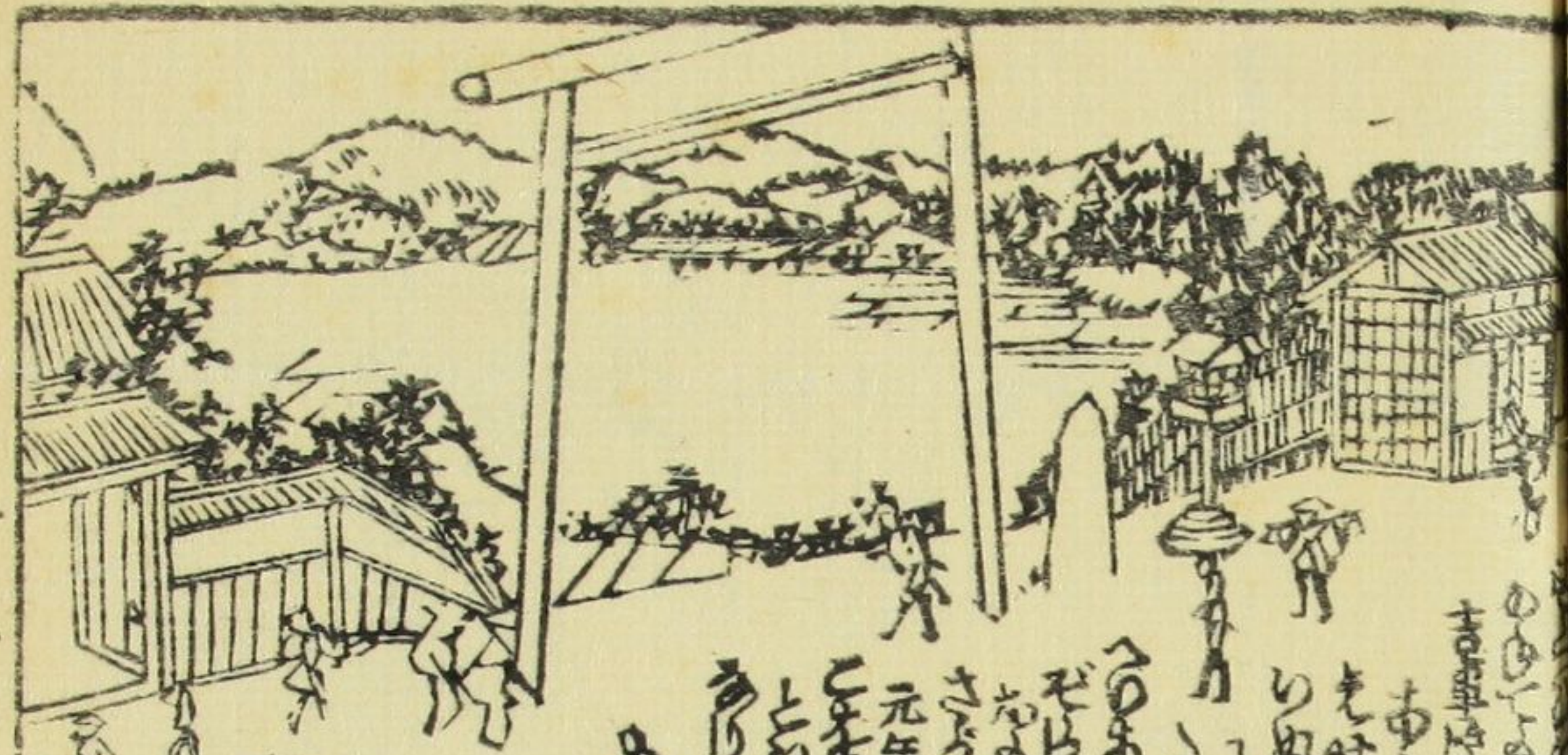
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも

あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも



あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも

あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも
あつちをわらふも



Handwritten Japanese text in vertical columns, including a list of names and titles such as '元年中の天目口' and '山本村'. The text appears to be a formal register or record.



Handwritten Japanese text in vertical columns surrounding the illustration of the building. The text includes various names and titles, continuing the list from the left page.

山本村

十四

山本村

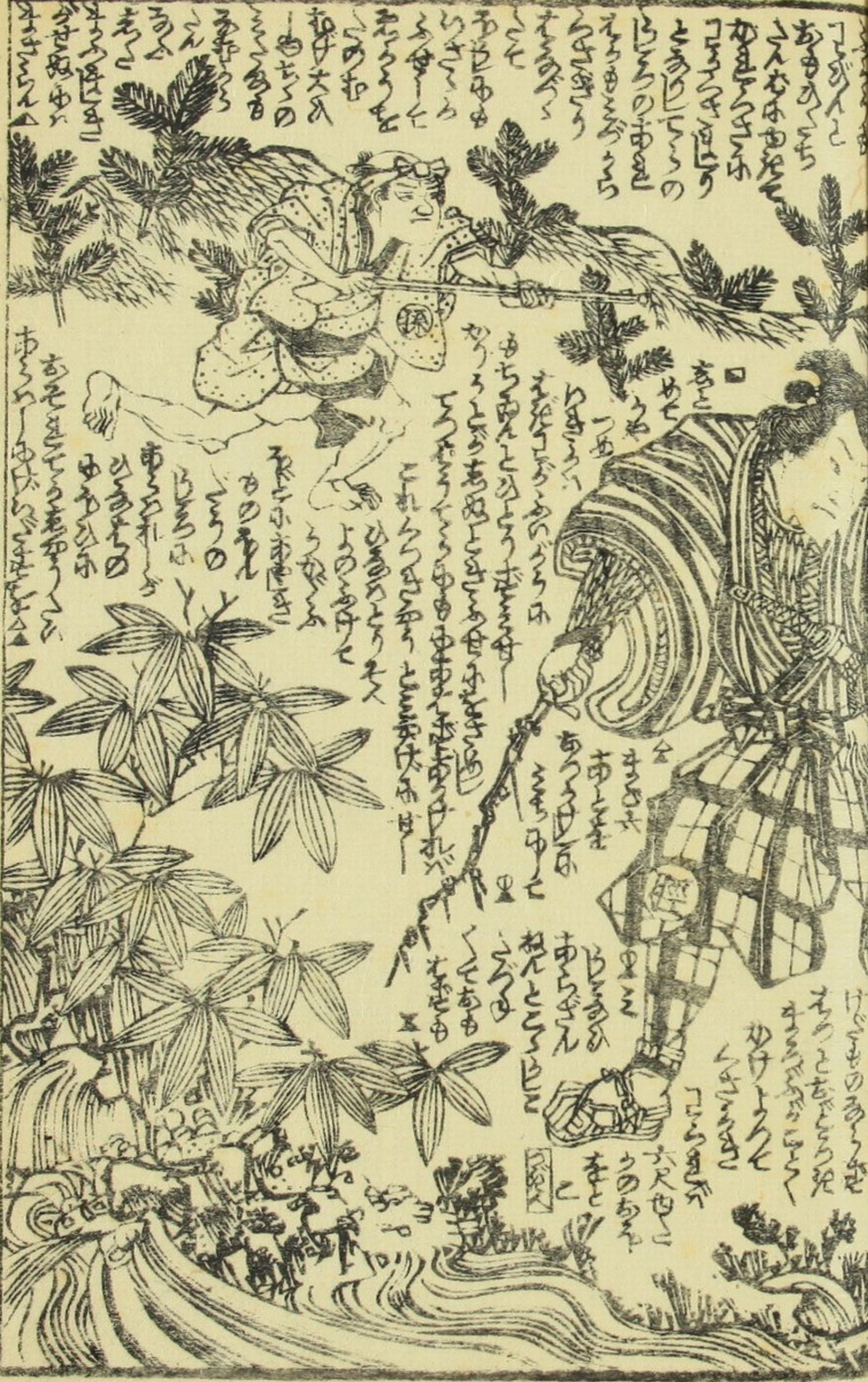
山本村

山本村

山本村



〇三
 〇二
 〇一
 〇四
 〇五
 〇六
 〇七
 〇八
 〇九
 〇十
 〇十一
 〇十二
 〇十三
 〇十四
 〇十五
 〇十六
 〇十七
 〇十八
 〇十九
 〇二十
 〇二十一
 〇二十二
 〇二十三
 〇二十四
 〇二十五
 〇二十六
 〇二十七
 〇二十八
 〇二十九
 〇三十
 〇三十一
 〇三十二
 〇三十三
 〇三十四
 〇三十五
 〇三十六
 〇三十七
 〇三十八
 〇三十九
 〇四十
 〇四十一
 〇四十二
 〇四十三
 〇四十四
 〇四十五
 〇四十六
 〇四十七
 〇四十八
 〇四十九
 〇五十



〇一
 〇二
 〇三
 〇四
 〇五
 〇六
 〇七
 〇八
 〇九
 〇十
 〇十一
 〇十二
 〇十三
 〇十四
 〇十五
 〇十六
 〇十七
 〇十八
 〇十九
 〇二十
 〇二十一
 〇二十二
 〇二十三
 〇二十四
 〇二十五
 〇二十六
 〇二十七
 〇二十八
 〇二十九
 〇三十
 〇三十一
 〇三十二
 〇三十三
 〇三十四
 〇三十五
 〇三十六
 〇三十七
 〇三十八
 〇三十九
 〇四十
 〇四十一
 〇四十二
 〇四十三
 〇四十四
 〇四十五
 〇四十六
 〇四十七
 〇四十八
 〇四十九
 〇五十



つれり
 日れいぬま
 ういんとくま
 ちいんちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 つのんちい
 まちい

これある
 本とんちい
 ちのんちい

あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 ちのんちい

あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい



あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 ちのんちい

あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 ちのんちい

あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 ちのんちい

あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 ちのんちい

あつちい
 ちのんちい
 ちのんちい
 ちのんちい



神楽
巻
代
国



古き物語ハ巻物多し一巻も源氏の最初より綴本なるに幾
 巻とい稱せ七五十四帖と云則ハ巻物多しぬ更明之昔菜の巻物の
 幅は紙の何の巻と云ハ上下有てりれも紙員百枚をかり然りと思へ
 新案巻物とい積と見苦しと云帖とせりも東海道の宿次
 小笠原根八里の長丁場市れ五井赤坂ハ半里ありぬも源氏の御世ハ
 ありての制りともかゆるも長譚ハ其一段の長き不過六匁ありぬ
 廣沼信濃ガ父の話四五十丁胡蝶秋津ガ久く出ぬと云る人もありぬ
 のあへ十五編より後々の短き丁場も形容かへき毎火の一禁
 灰も二人の話と校るべし

柳之野種



室町源氏胡蝶
 巻柳種之次
 他梅味博画圖

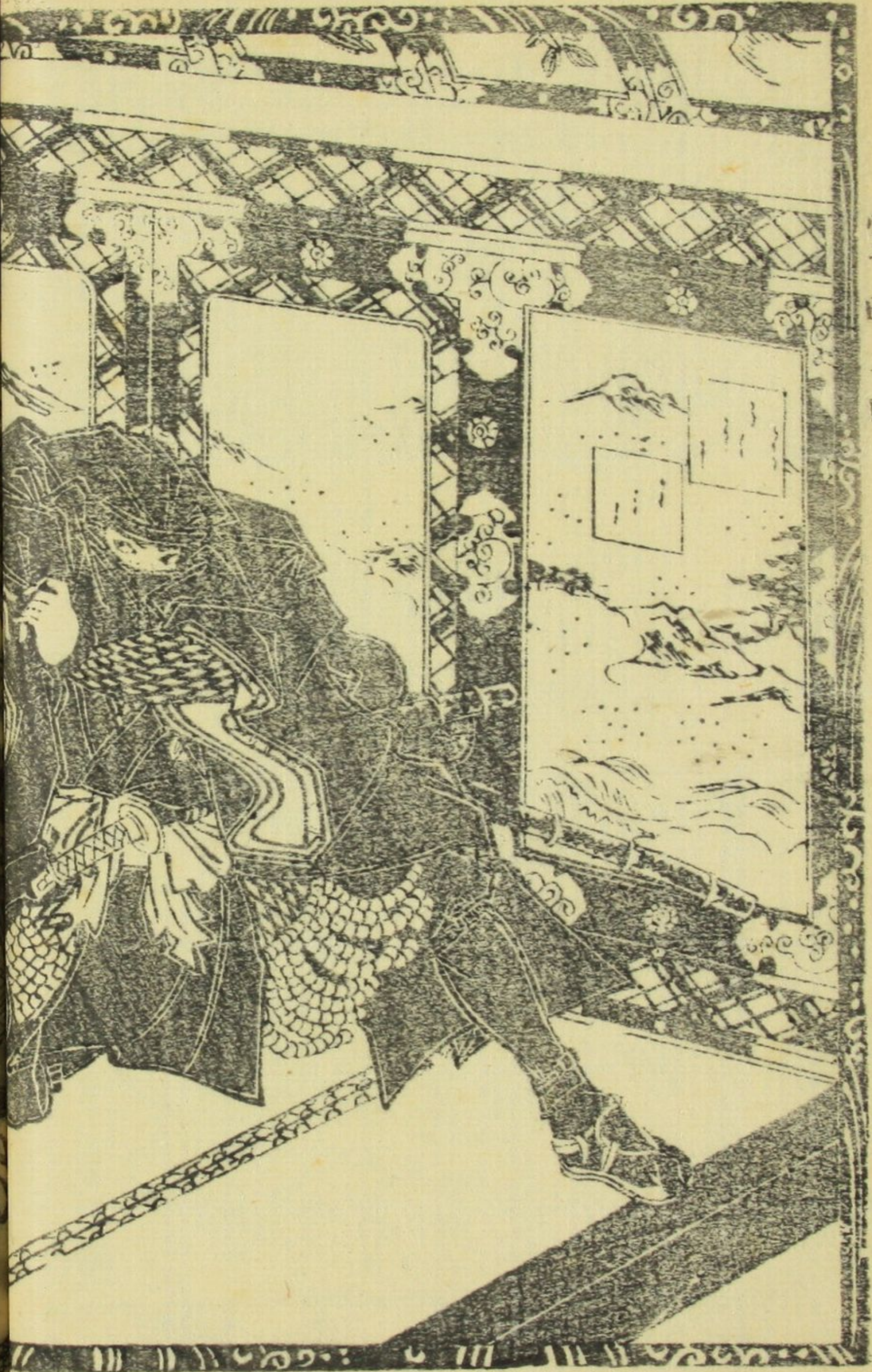
上



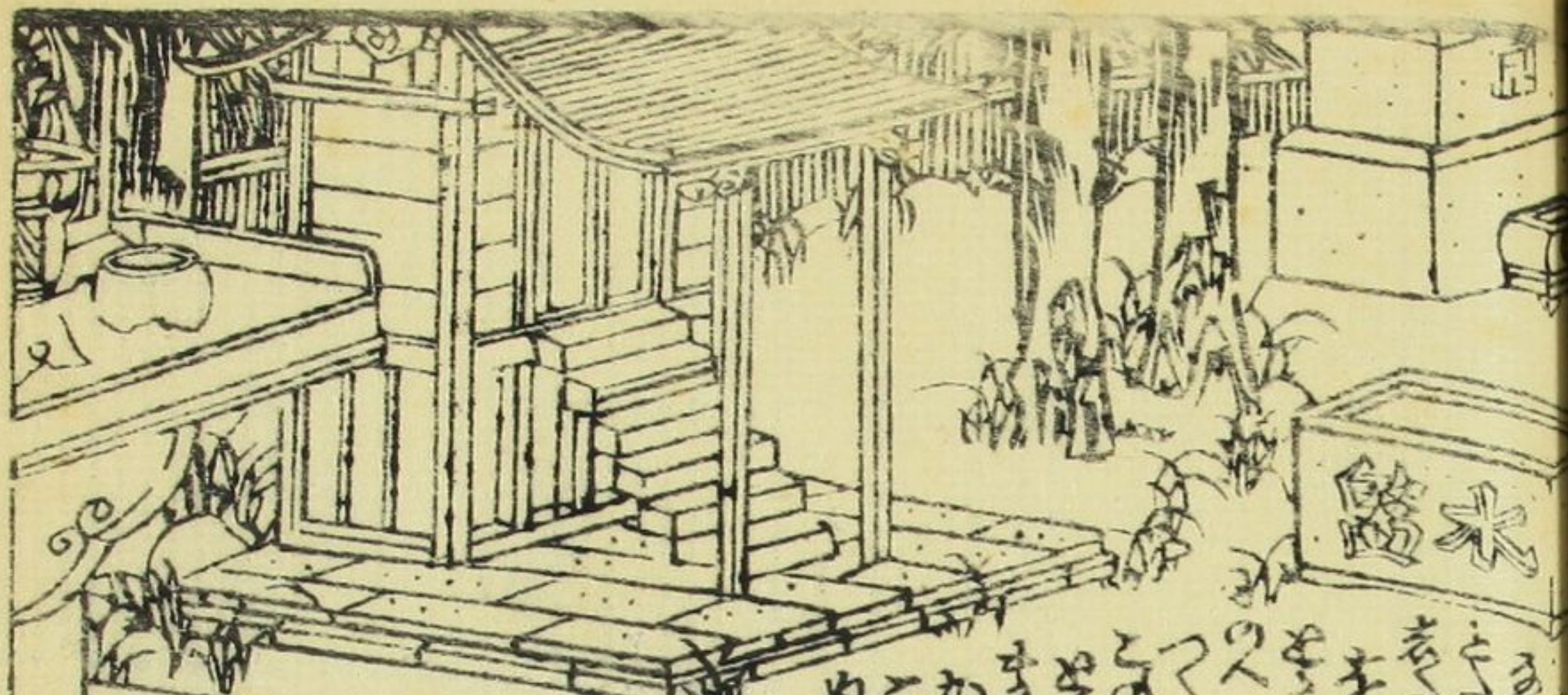


真の花園姫漸々
猛くおろ子細ハ
十八九編お卸り七分

六丁十四



三田一四

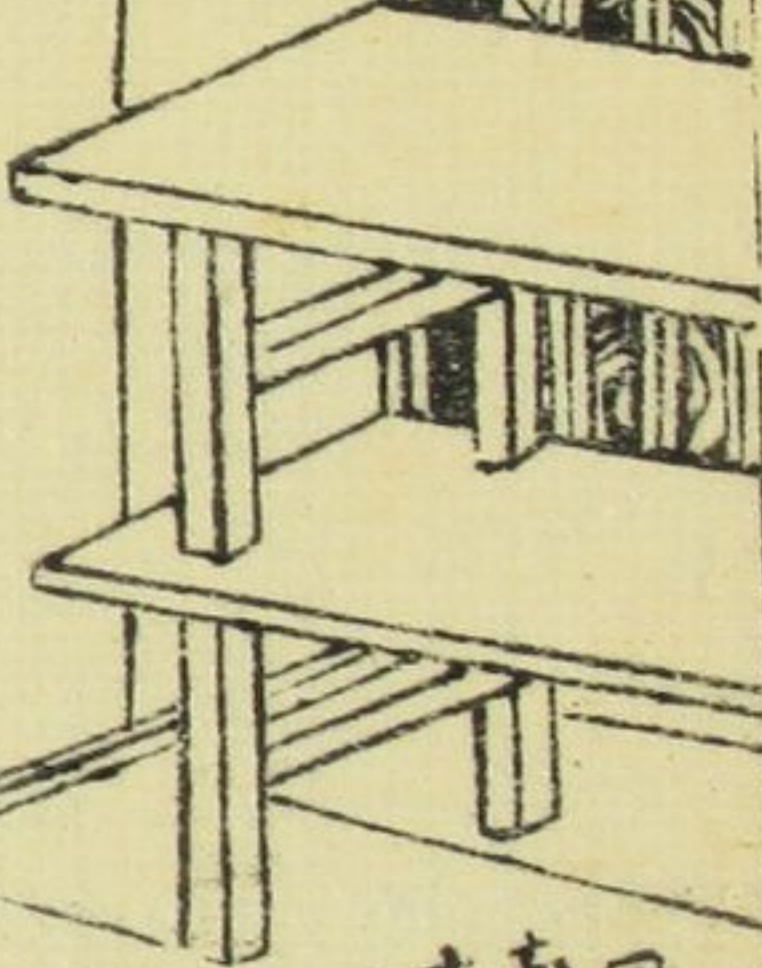
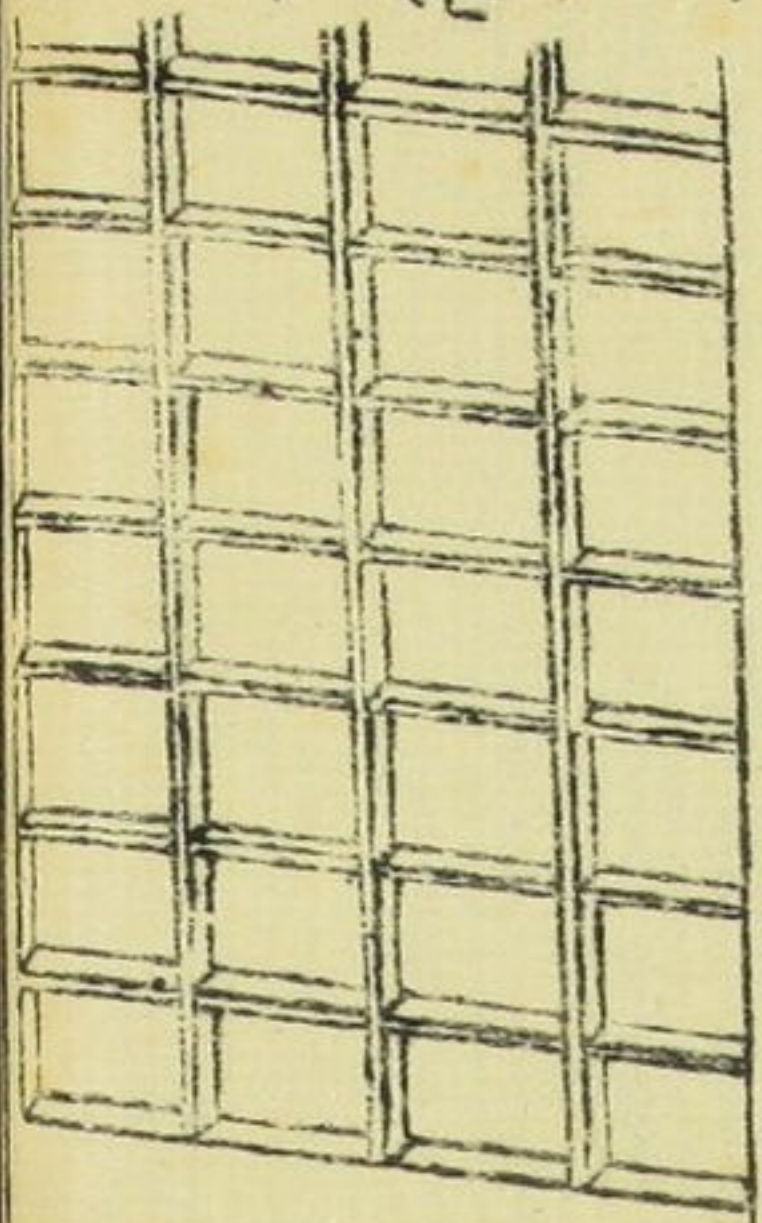


水防

五

防火燭

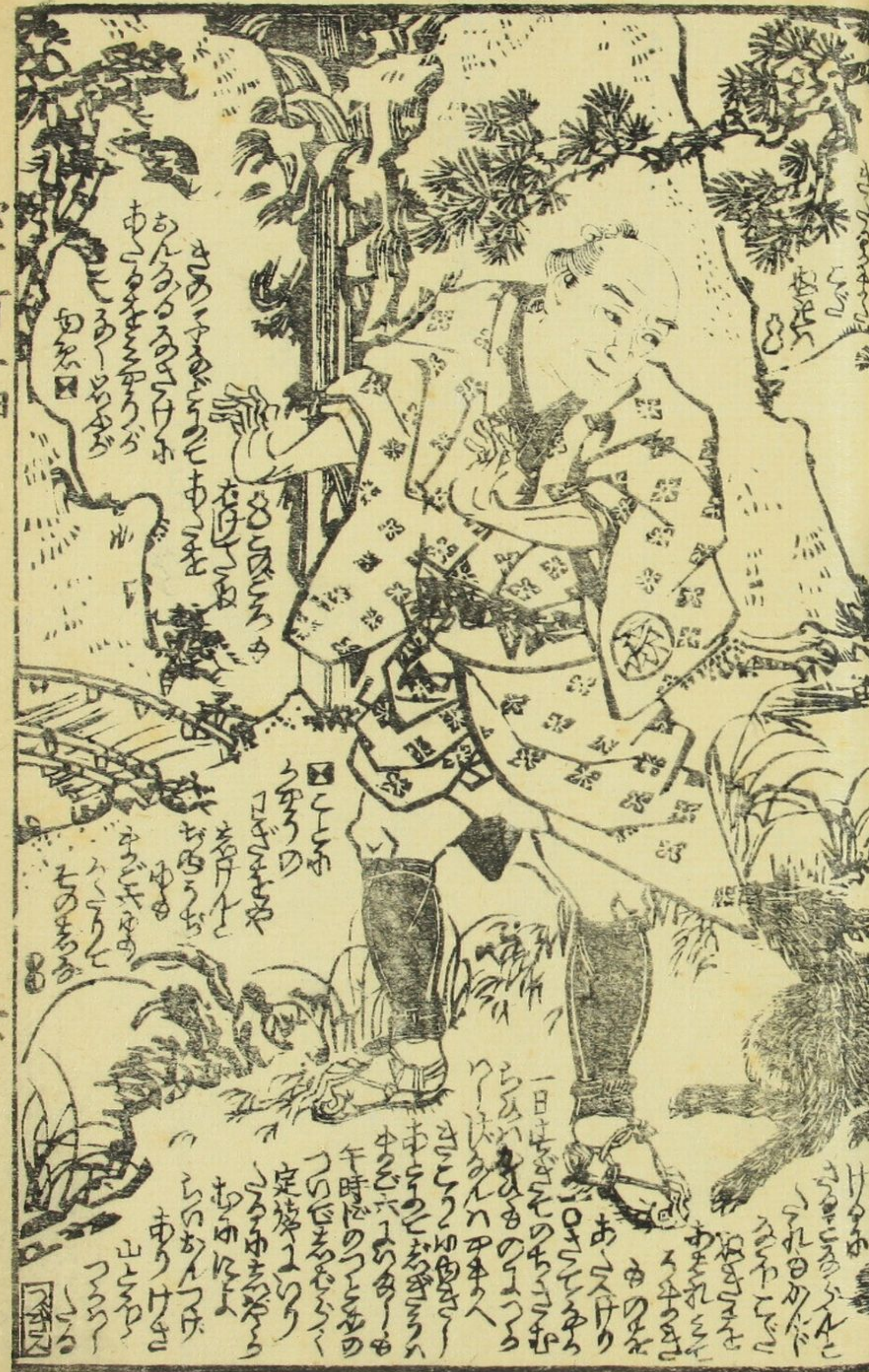
防火燭



あつたぬき
まひあつた
つたてん月
あつたぬき
こつたてん月
まひあつた
あつたぬき



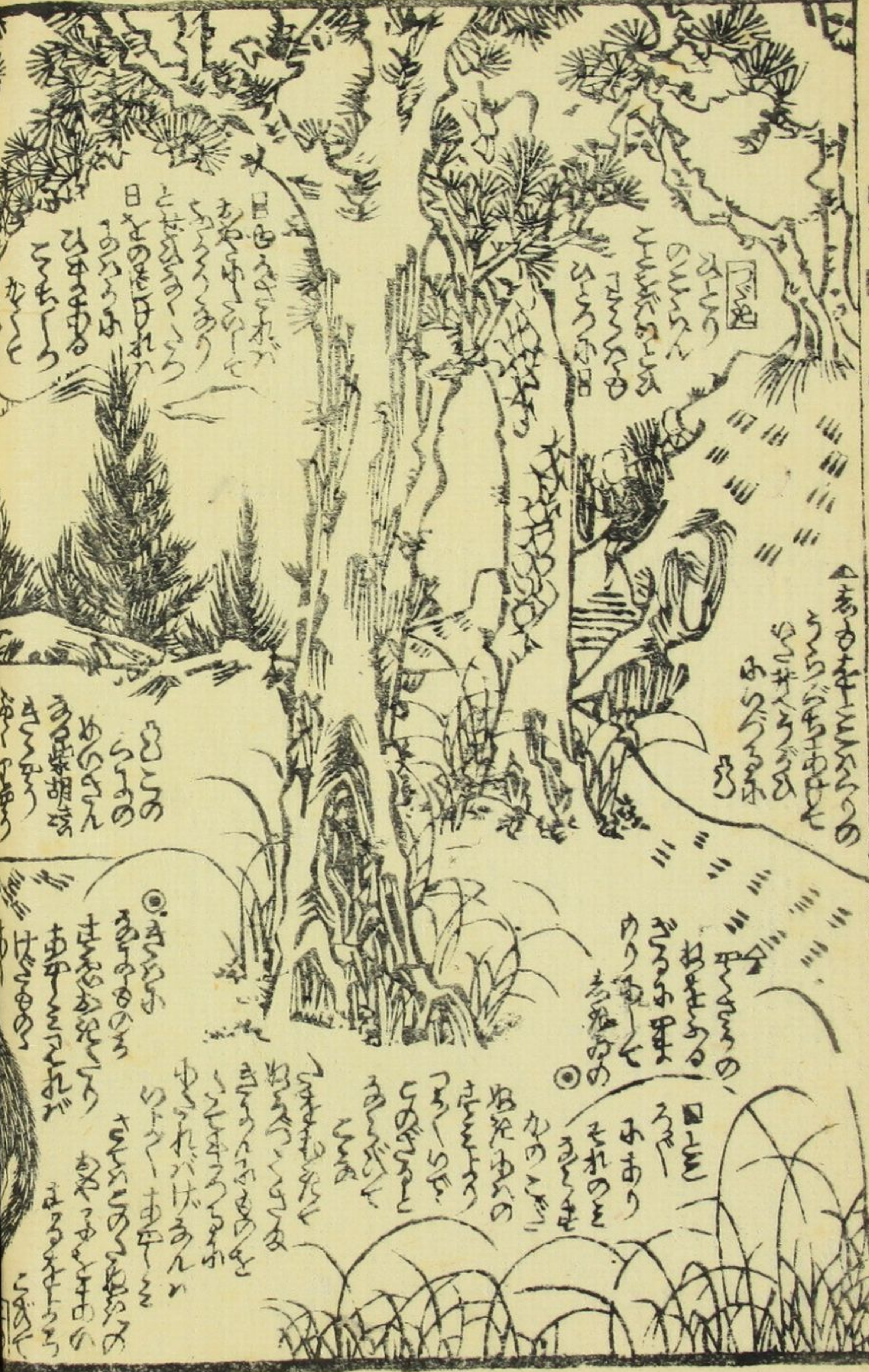
あつたぬき
まひあつた
つたてん月
あつたぬき
こつたてん月
まひあつた
あつたぬき



あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる

うさぎの
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる

一日はあんなるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる



あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる

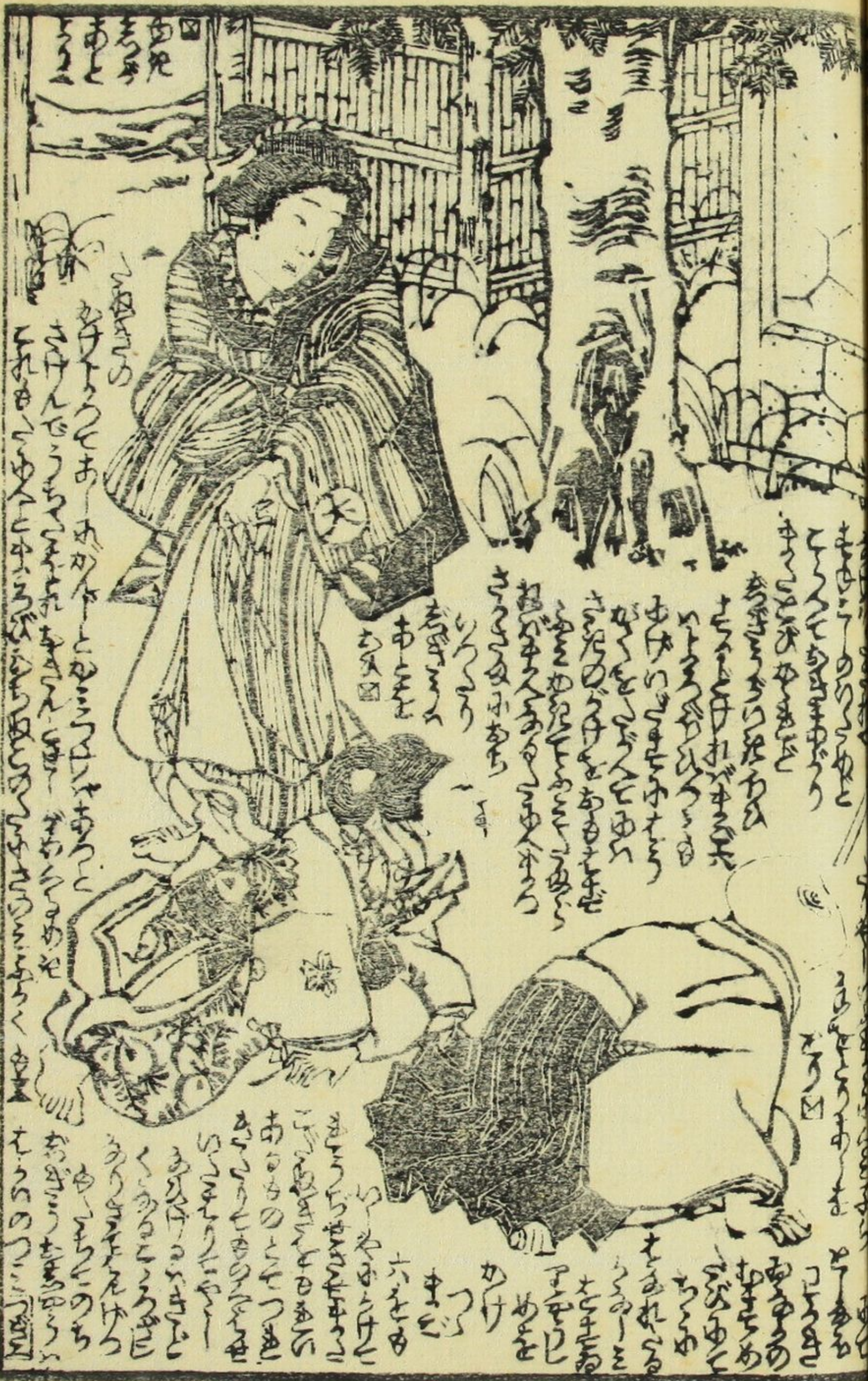
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる

あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる
あんなるるるるるる

室町十四

五

五





種彦若

丹渡

因貞画

實母散

さんざんきんじ 中橋南傳馬町東側
 五トんちるふち
 四つみ茶
 千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻

六編近
 出板
 山々亭有人作
 梅朝樓國貞画

藜黃鵬八幡不知

五編近
 出板
 山々亭有人作
 錦朝樓芳席画

阿玉ヶ池櫛月形

初編近
 追々出板
 山々亭有人作
 陽齋豊國画

地本綿繪團扇問屋

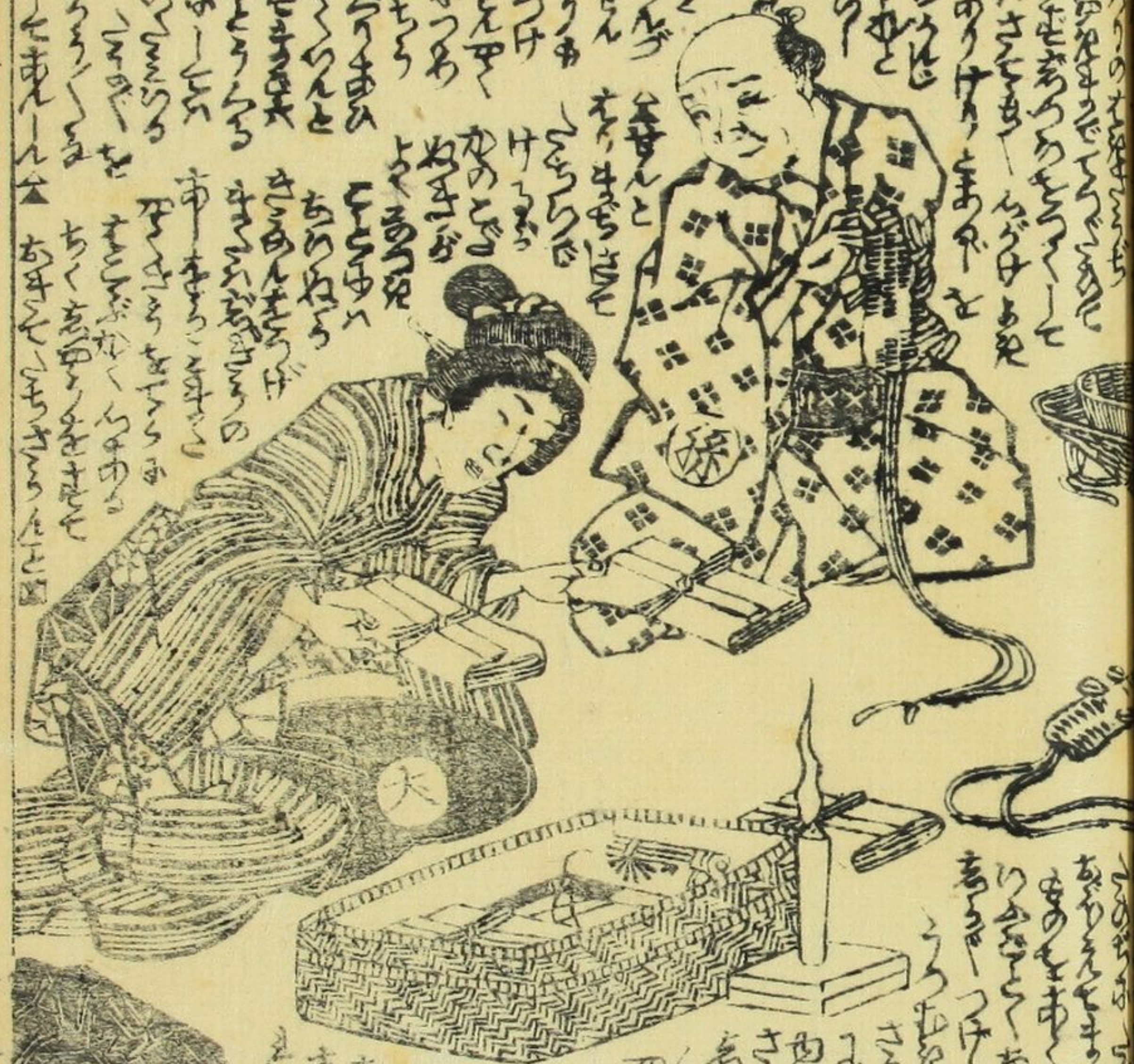
紅英堂 葛吉



十四日下



Handwritten text in a cursive style, likely a form of shorthand or a specific dialect, surrounding the illustration.



Large handwritten characters in a cursive style, possibly representing a name or a title, with decorative green leaf motifs interspersed.



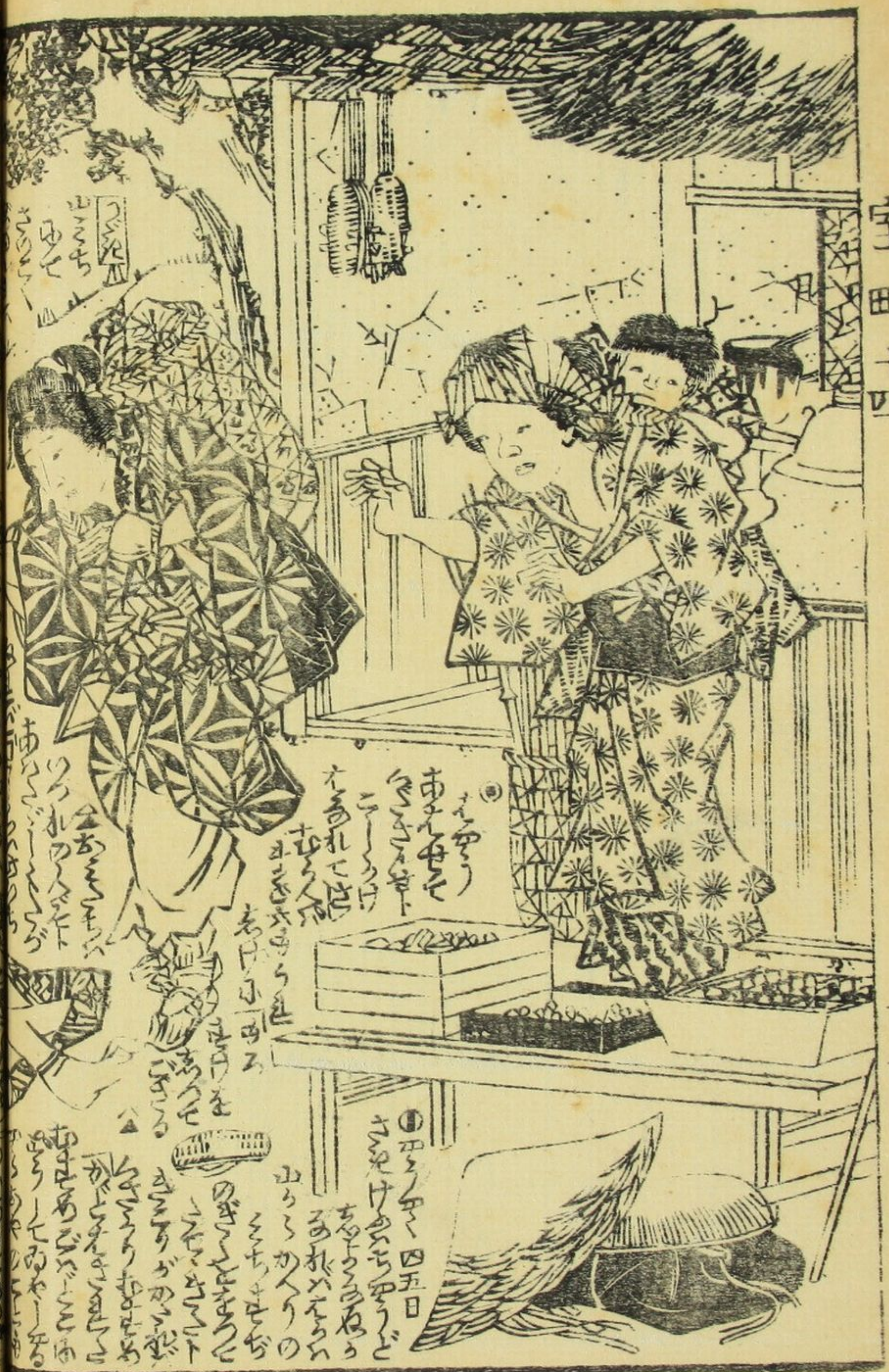
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ

あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ

三日月
あつてはさういふ
さういふさういふ

あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ

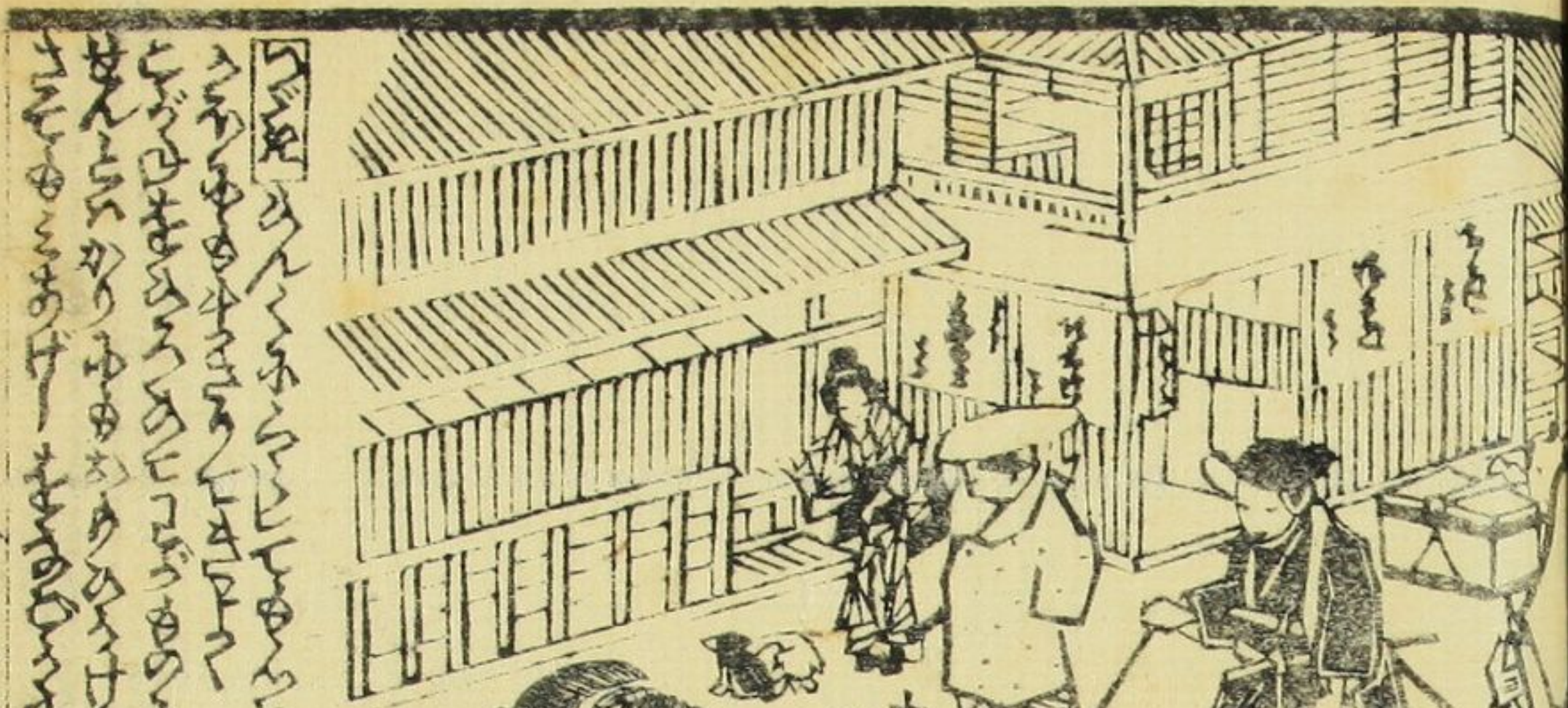
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ



あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ

あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ

あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ
あつてはさういふ
さういふさういふ



Handwritten text in a cursive style, likely a diary or travelogue, written in a vertical column on the left side of the page. The text is densely packed and covers most of the page's width. It appears to be a personal account of events or observations related to the scene depicted in the illustration above.

田中

十一



Handwritten text in a cursive style, continuing the narrative from the left page. The text is written in a vertical column on the right side of the page. It provides further details and observations, possibly related to the activities or locations shown in the illustration above.

田中

十一



之餘慶

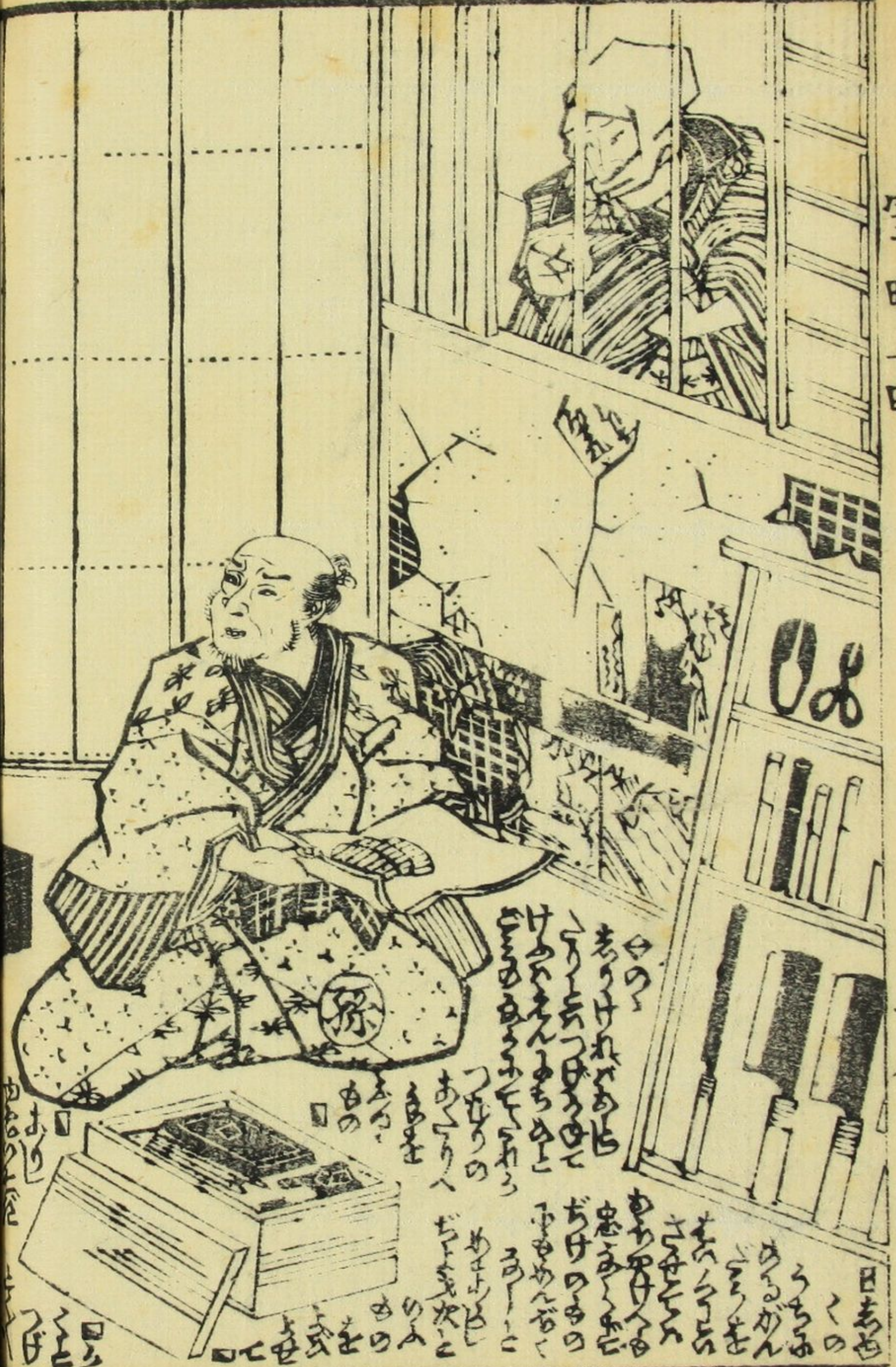
田一

十



Vertical Japanese text columns on the left side of the illustration, providing a narrative or descriptive context.

Vertical Japanese text columns below the illustration, continuing the narrative or providing additional details.



Vertical Japanese text columns on the right side of the illustration, providing a narrative or descriptive context.

明治七年甲戌陽春開板標目

種彦著國貞画

室田十

假花園の披露
 次篇小



紅英版元

厚化粧萬年嶋田
 十編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶卷
 廿三種彦作 國貞画

鼠祠通夜譚
 八編 種彦作 國貞画

童謡妙々車
 二十五種彦作 國貞画

薄倂幼日記
 廿七種彦作 國貞画

七姉と葛飾譚
 十種彦作 國貞画

新島九尾傳
 十三種彦作 國貞画

筆海四國聞書
 十三種彦作 國貞画

明鴉墨画廻補襦
 十五種彦作 國貞画

花村荅玉章
 十編 種彦作 國貞画

八犬傳大の双紙
 五編 柳亭作 國貞画

南傳馬町堂丁目
 葛屋古藏板

源氏

胡蝶

のまに



室町源氏胡蝶
卷柳 種之次
仙梅 陳時馬 團

上

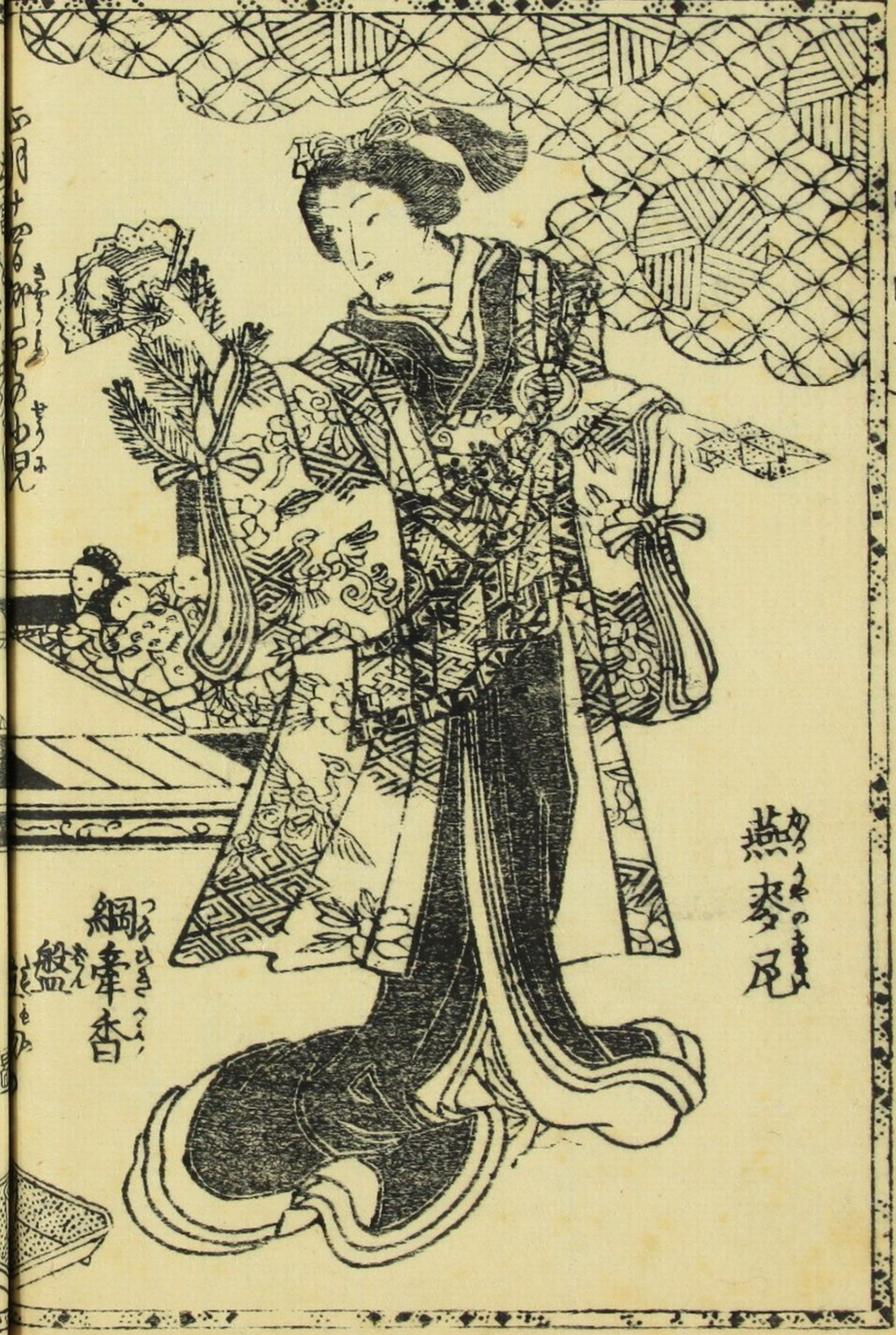


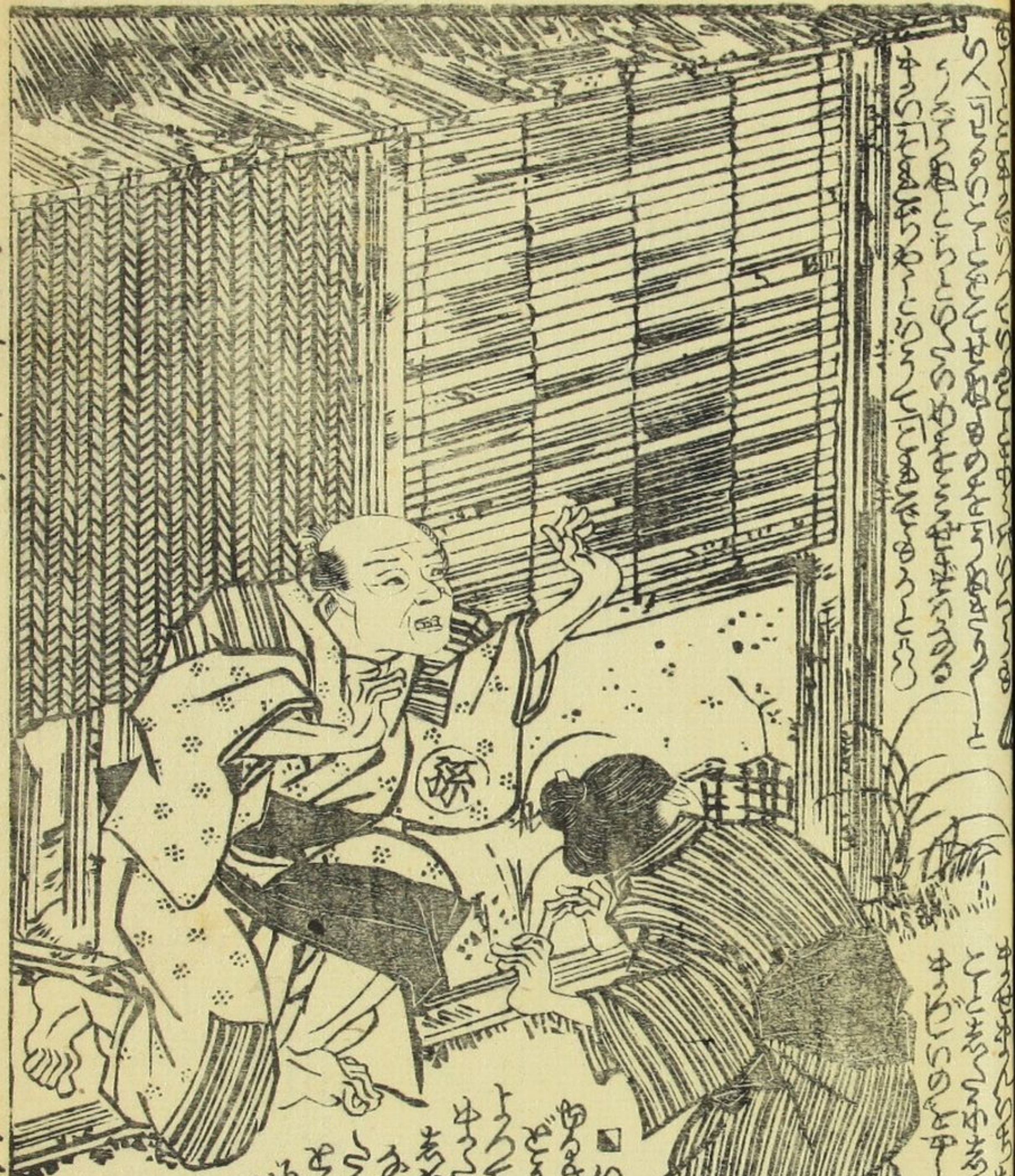
古き小唄の雑語よめてゆくまづふはにまことやまこととていふ義のゆるゆと小
 女の問ふも言人もせを顔面めハ抑何の言と心得ハ僕代々其義を
 説けりて蝶々の替を駈下まこと小挿ともいふ急ぎ長買みみだ懸らんよ
 かの念と入る語蝶の止る葦とまこと蝶搔頭ハ鯉青もや花ありと博識
 めけて演舌ハ小娘と合點せまこと餘ハ油ハ考るとまこと無益の疑疑ハ
 ものまて番つを遊北と混めハ鏝鉸ハ撰語のまこと憚る人もあり
 とま百人一首のまこと入る軟骨牌の時困るハ草冊子の親子の中でも
 讀る爲ハまことといふも余ハまことと推言を用くと濡場ハまこと愛形も
 ありまの釘の墜落筋もまこと支話もこれを竟る本文の蝶々徐々
 寛々と長物語を御心もまことそつ賢もまこととて

慶應四年新春刊行

柳之種之次







Handwritten text in a cursive style, likely a dialogue or narrative. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the illustration and moving left. It includes various characters and symbols, possibly representing specific names or actions related to the scene.



Handwritten text in a cursive style, continuing the narrative or dialogue from the previous page. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the illustration and moving left. It includes various characters and symbols, possibly representing specific names or actions related to the scene.



Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located in the upper left corner of the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located in the lower left corner of the illustration.



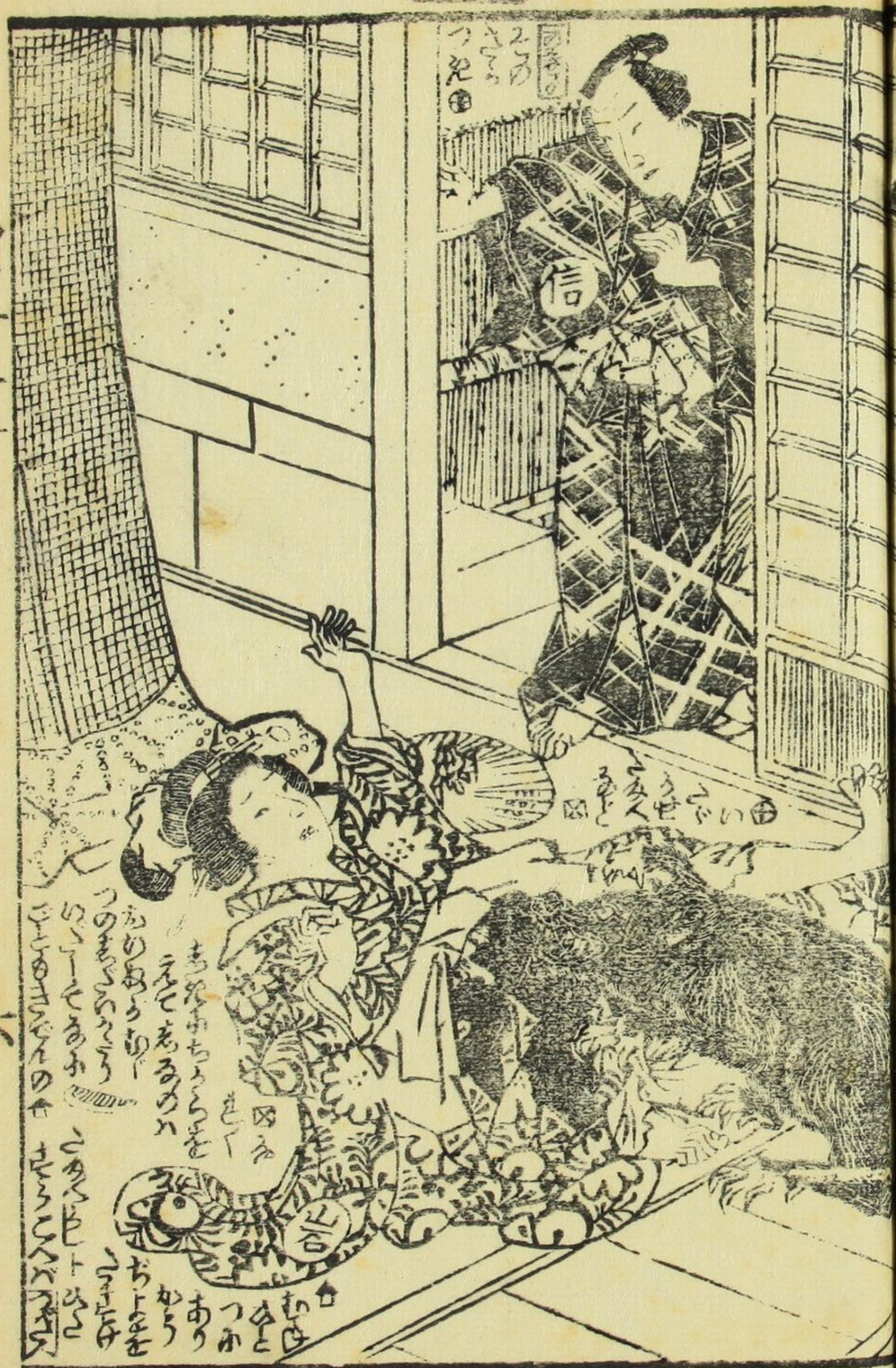
Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located in the upper left corner of the illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or inventory, located in the lower left corner of the illustration.

田五

三

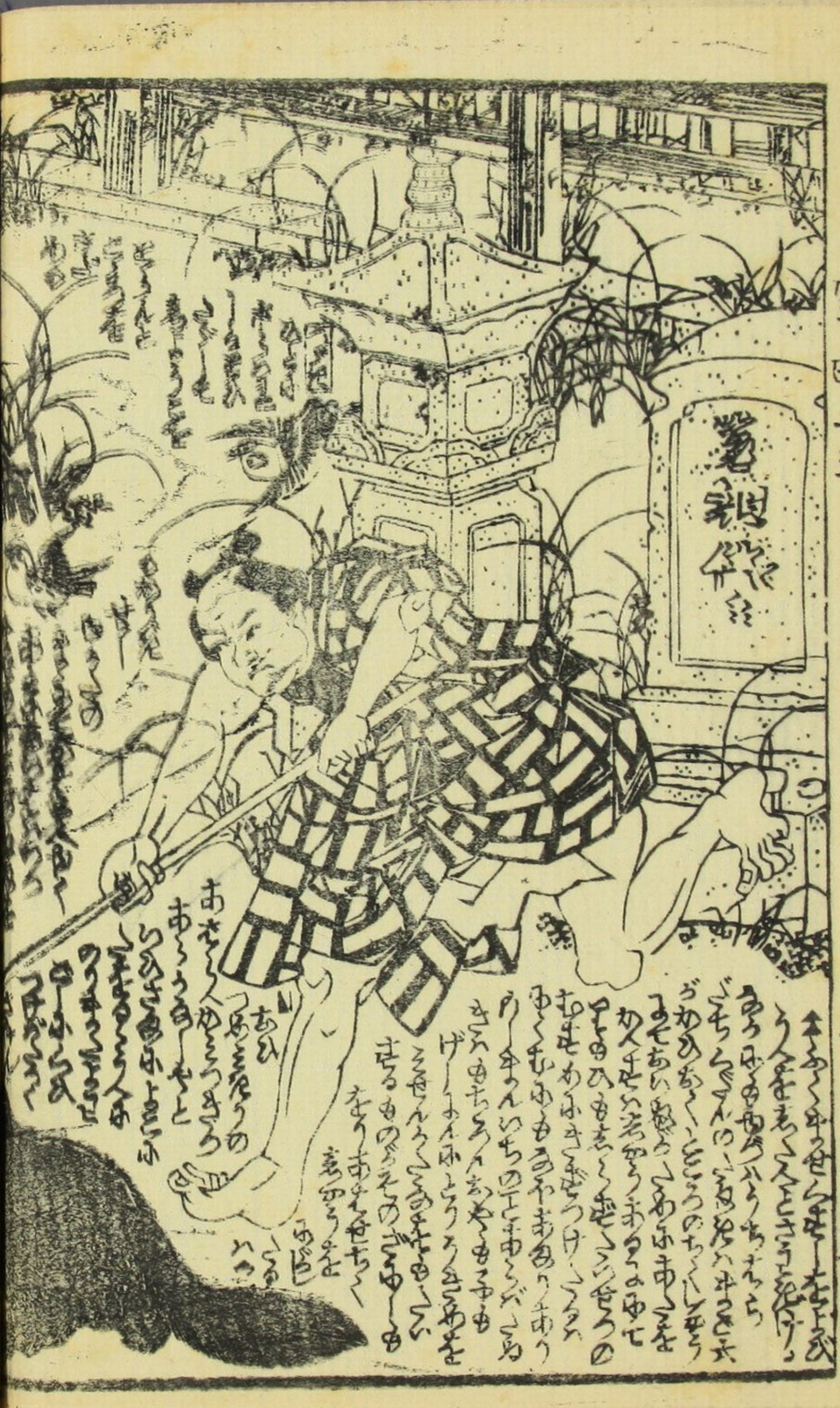
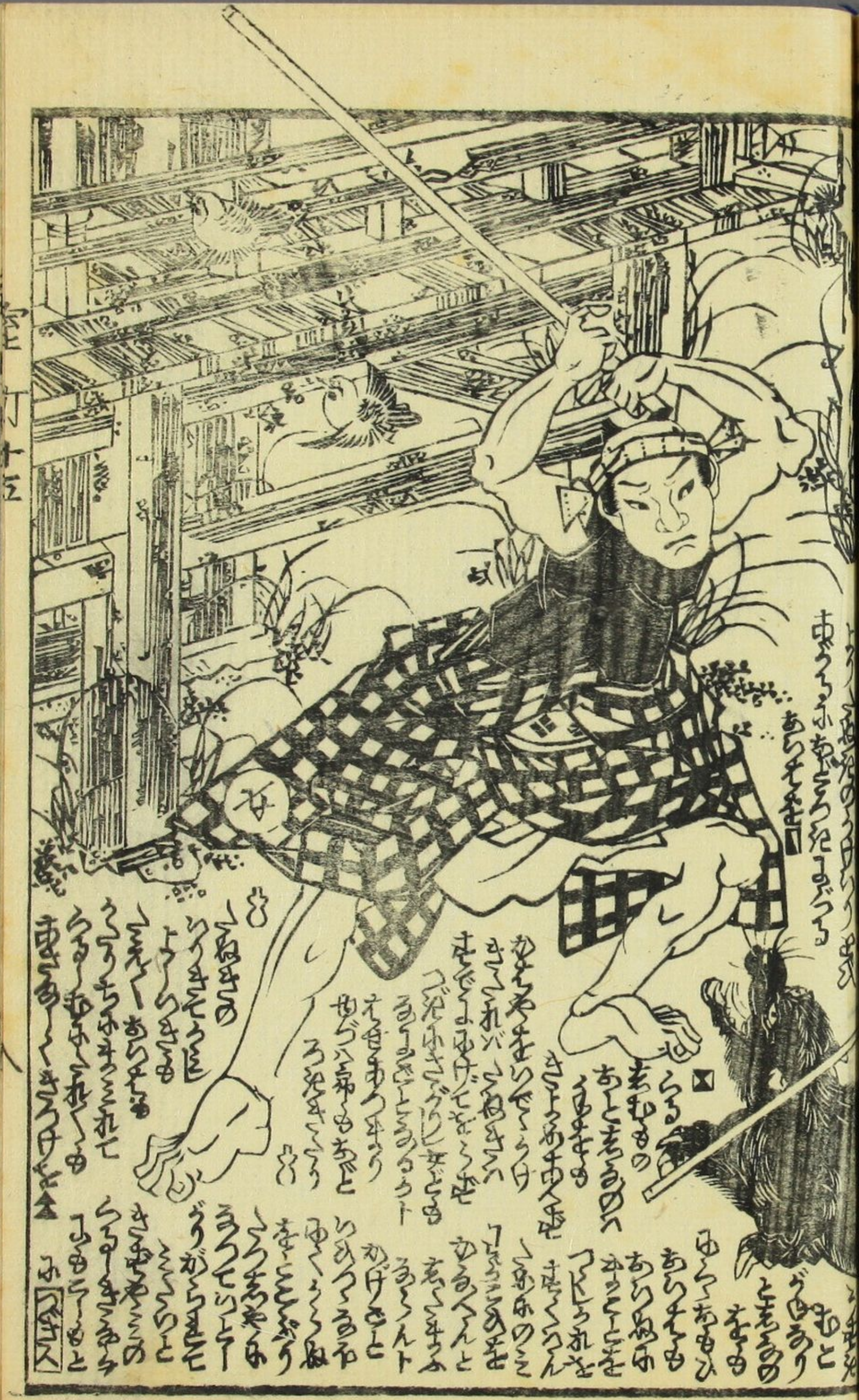
何れか入らば...
 此の...
 月上の...
 此の...
 此の...
 此の...
 此の...



101
 112

此の...
 此の...
 此の...
 此の...

三



さかきつゝいひて
おのゝちふりつちまを
さかきつゝいひて
おのゝちふりつちまを
さかきつゝいひて
おのゝちふりつちまを
さかきつゝいひて
おのゝちふりつちまを

種彦作國貞画



けいけいひあけを
百世享洋一いめを
うらと女中しめひのこ
さうげやをを
けいけいひあけを
百世享洋一いめを
うらと女中しめひのこ
さうげやをを

實母散

中編南傳馬町東門
千葉堂芽鞠製
四のめ茶

柳蔭月朝妻

六編近
出板
山々亭有人作
柳朝樓國貞画

藝黄鵬八幡不知

五編近
出板
山々亭有人作
錦朝樓芳希画

阿玉々池櫛月形

初編近
追々出板
山々亭有人作
陽高豊國画

地本綿繪團扇問屋

紅英堂 葛吉



種彦
旭

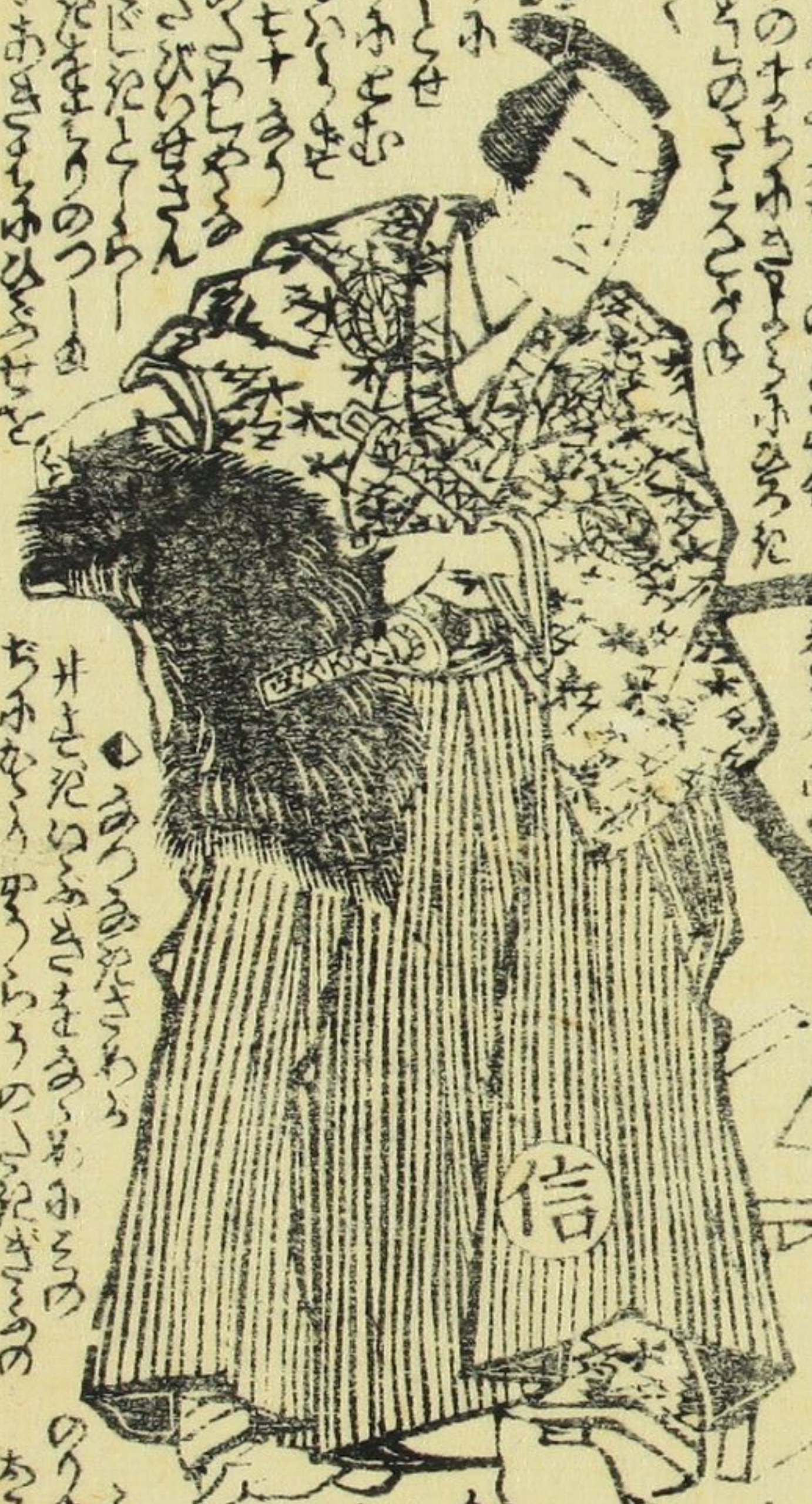
阿久

十五章下



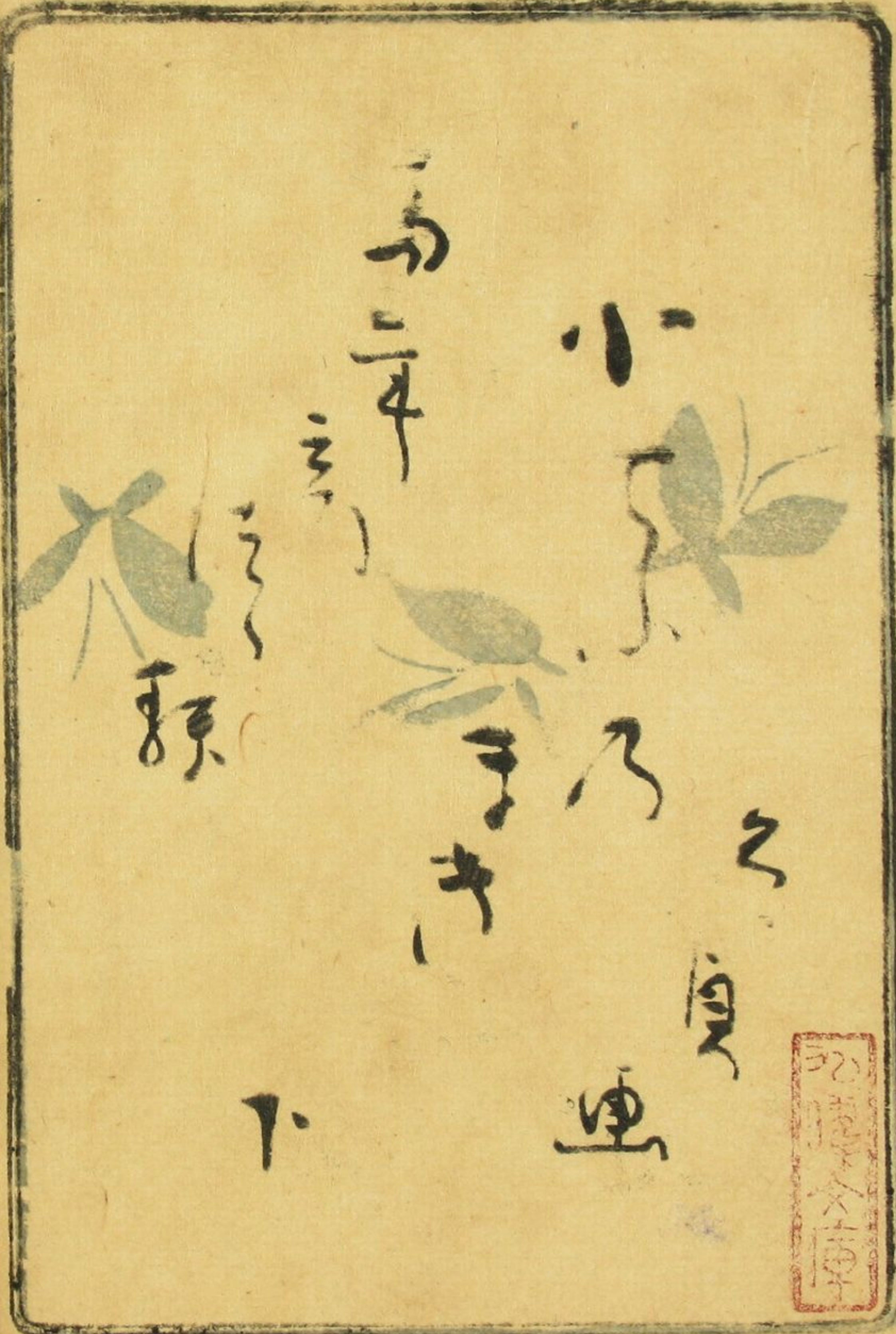
Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive style, likely a preface or introductory text, located at the bottom of the left page.



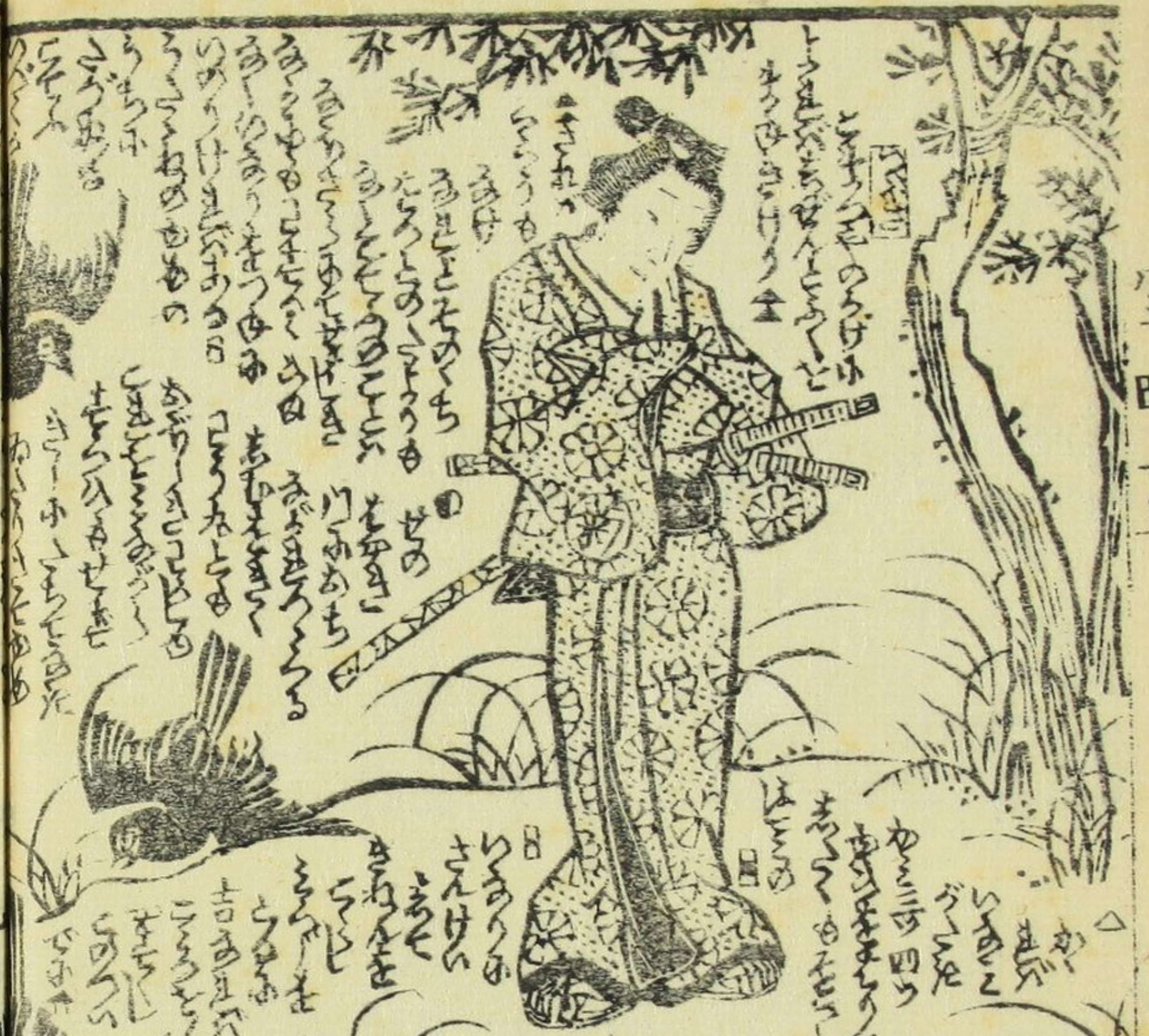
Handwritten text on the left margin of the left page.

Handwritten text on the left margin of the left page.

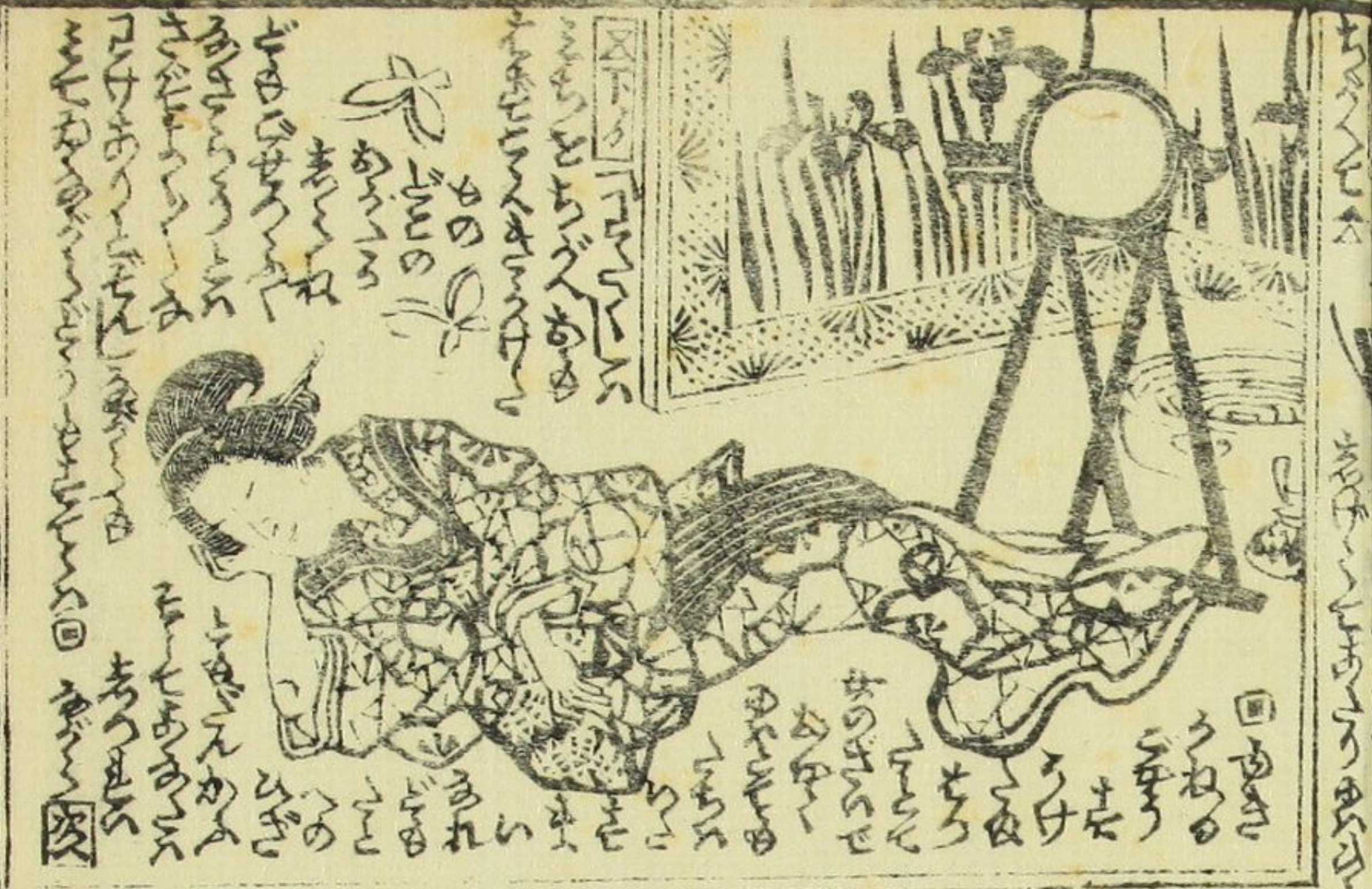


Red square seal impression located at the bottom right of the right page.

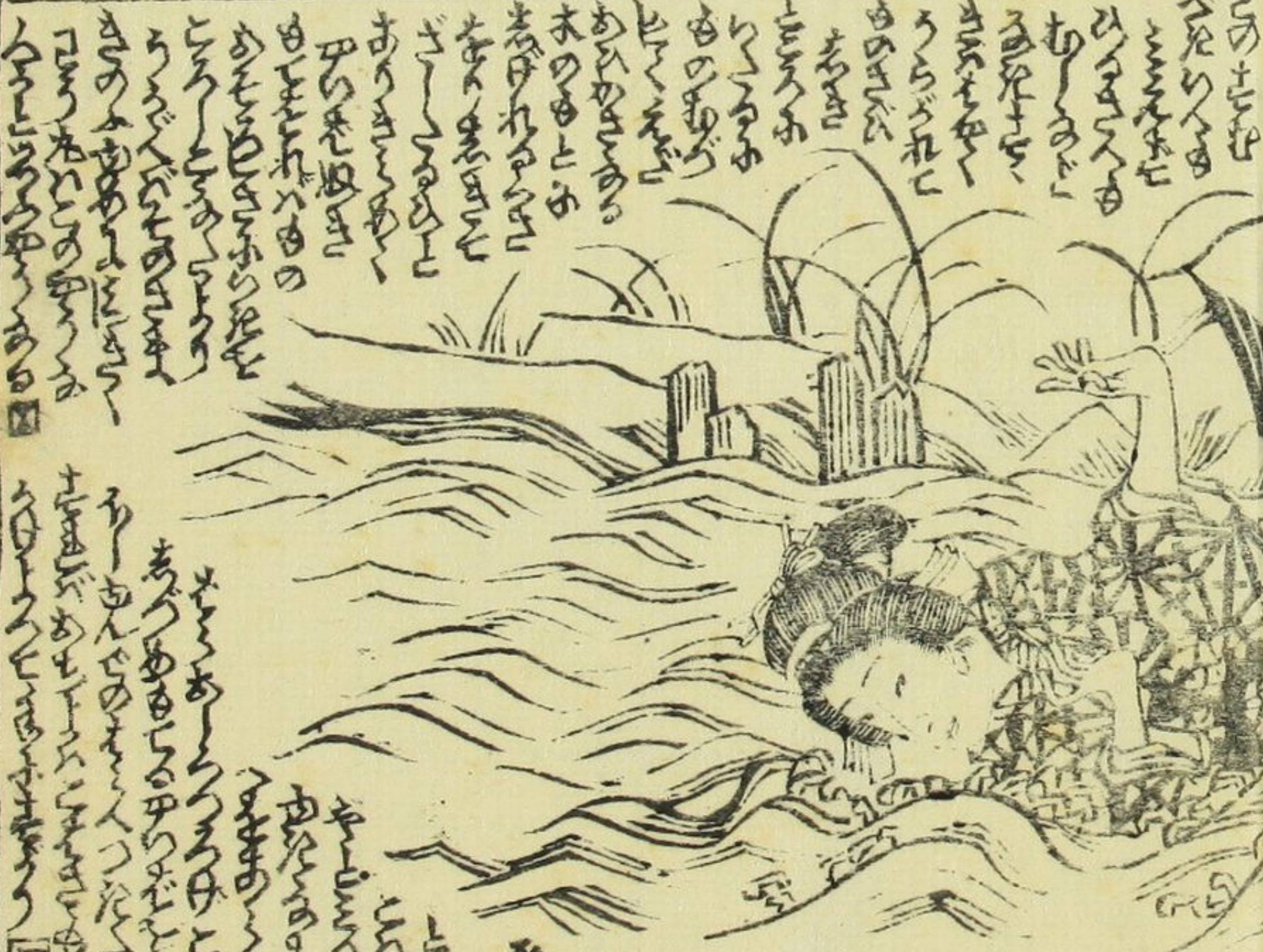




Multiple columns of handwritten text in Japanese, interspersed with the illustration of the woman in the kimono.



Multiple columns of handwritten text in Japanese, interspersed with the illustration of the woman sitting.



Multiple columns of handwritten text in Japanese, interspersed with the illustration of the woman lying down.

Bottom row of handwritten text in Japanese, spanning across the right page.

室田十五

十一



金ごてふまゝに
 りかゝりかゝり
 あらわきかゝり
 ろんごてふまゝに
 ひまごてふまゝに
 ろんごてふまゝに
 ろんごてふまゝに
 ろんごてふまゝに
 ろんごてふまゝに
 ろんごてふまゝに

あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ

あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ

あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ



あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ

あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ

あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ

あつち
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ
 ひろひ

厚化粧萬年嶋田

八編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶卷

廿三編 種彦作 國貞画

鼠祠通夜譚

八編 種彦作 國貞画

童謡妙々車

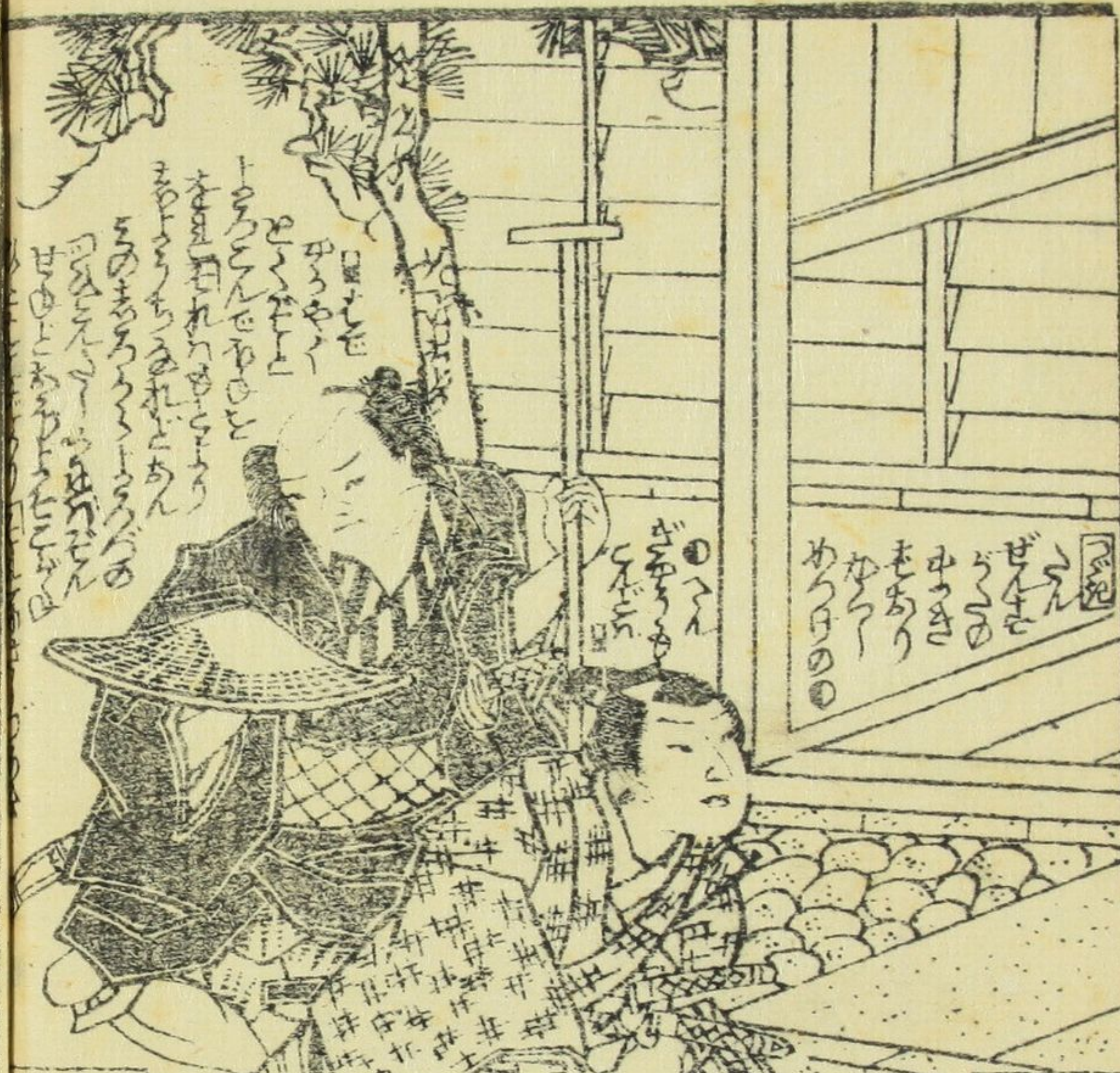
二十五編 種彦作 國貞画

薄倂幼日記

廿二編 春水作 國貞画

七幼女葛飾譚

十編 種彦作 國貞画



歌川國貞画

柳亭種彦作

新島九尾傳

十三編 春水作 國貞画

筆海四國聞書

十三編 種彦作 國貞画

明鴉墨画懸襦袢

十五編 種彦作 國貞画

花封苔玉章

十編 種彦作 國貞画

八犬傳大の衣紙

五編 柳亭作 國貞画

葛屋吉藏板

南傳馬町堂丁門

この本は、
厚化粧萬年嶋田の
八編、春水作、國貞画
室町源氏胡蝶卷の
廿三編、種彦作、國貞画
鼠祠通夜譚の
八編、種彦作、國貞画
童謡妙々車の
二十五編、種彦作、國貞画
薄倂幼日記の
廿二編、春水作、國貞画
七幼女葛飾譚の
十編、種彦作、國貞画
の各編を、
一冊にまとめた
ものである。
各編の題名、
編数、作者、
画家は、
本書の表紙に
記載してある。
また、各編の
内容、
特色、
など、
も、
本書の
裏紙に
記載してある。
この本は、
非常に
面白い
ものである。
ぜひ、
読んで
ほしい。
と、
著者の
意気込みが
よく、
伝わってくる。
この本は、
非常に
面白い
ものである。
ぜひ、
読んで
ほしい。

この本の、
内容は、
非常に
面白い
ものである。
ぜひ、
読んで
ほしい。
と、
著者の
意気込みが
よく、
伝わってくる。
この本は、
非常に
面白い
ものである。
ぜひ、
読んで
ほしい。

